

# 学内広報

for communication across the UT



特集：東大サステイナブルキャンパス  
プロジェクト（TSCP）本格始動へ！

2008.7.18

No. 1375

### 東大サステイナブルキャンパスプロジェクト(TSCP) 本格始動へ!

本学では、東大サステイナブルキャンパスプロジェクト(TSCP)を立ち上げ、先導的な試みを実践していくこととし、小宮山総長が今年度の入学式辞において、2012年度までにCO<sub>2</sub>排出量を15%削減することを約束しました。6月には、TSCPの第一弾として、学内の照明器具約36,000台を省エネタイプに更新することを発表し、さらに、7月1日(火)には本プロジェクトの実行部隊となる東大サステイナブルキャンパスプロジェクト室(TSCP室)が本部に設置されるなど、全学的な活動が本格化しています。そこで今号では、通常のコラムのページを拡大し、TSCPについて特集いたします。

#### 東大が社会のモデルになる! ~小宮山総長からのメッセージ~

昨今、世界的に低炭素社会の実現が叫ばれていますが、それを如何に実現させるかということについては、まだ他人事のように思われているのではないのでしょうか。本郷キャンパスは、都内の事務系事業所の中で最も多くのCO<sub>2</sub>を排出しています。大学も口で言っているだけではなく、自らやってみて持続可能型社会モデルを示していかなければなりません。そのため、本学ではTSCP室を7月1日に発足させることにしました。

学内を調査した結果、大学特有の実験の部分では、エネルギー使用量が意外と少ないことがわかりました。電力消費量の内訳は、3分の1が実験で、それ以外の3分の2は、一般的なオフィスとさほど変わりはありません。ですから、その3分の2の部分を対象に省エネ対策をやるといのは、学外でも応用できるオフィス一般のCO<sub>2</sub>削減を先駆けて実践するという意味もあります。東大が省エネオフィスのモデルとなり、省エネ機器やリフォーム産業の発展を促すなど、世界を動かすような大きな効果を引き出したいと思っています。(6月17日(火)の記者会見にて)



記者会見の様子

左から磯部TSCP室室長、小宮山総長、西尾理事・副学長、花木サステイナブルキャンパスWG主査

#### Special Interview



TSCP室 室長  
磯部 雅彦  
総長特任補佐(副学長)

機器交換の騒音を我慢するのも協力のうちです。あなたのできる範囲でご協力を。

このような背景があり、キャンパス計画室のもとに省エネルギーワーキンググループ(以下「WG」)を作り、学内における省エネ対策の検討を始めました。平成18年度には、そのWGが「サステイナブルキャンパスWG」と名称を変え、そこでさらに発展的な議論が行われるようになりました。

そして、今年1月から総長室で開催されてきたWGで本学の現状を分析し、議論を重ね、入学式での数値目標の発表に至りました。

#### TSCP発足の経緯は?

小宮山総長が機構長を務めておられるサステイナビリティ学連携研究機構(IR3S)の研究活動の延長線で、数年前に東大における持続可能なキャンパスのあり方について考えようという話が出てきました。一方で、海外でもこうした動きは既に始まっており、東大が参加しているIARU(International Alliance of Research Universities)という国際的な大学アライアンスの会合においても、近年、サステイナブルキャンパスが重要課題としてあがってきています。

#### 東大独自の取り組みは?

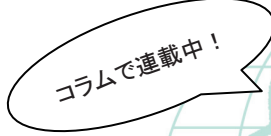
まずは**機器、ハード面での対策**(省エネ機器への更新)を大量調達による低廉化のメリットを活かし、全学一斉にやっていきます。また、それだけではなく、電力使用の現状をユーザーに見せることによって無駄を減らし、自律的に省エネルギーを図っていくこと



## サステイナブルキャンパスとは？

大学のキャンパスは将来の社会を先進的に実現する場であり、そのためにさまざまな実験的な取組みを行うところが、社会をリードする大学の役割です。今回の特集では二酸化炭素の排出削減を取り上げていますが、廃棄物、水や資源の消費を含む環境要素も重要ですし、さらに教育・研究活動、経済的要素、社会的要素も含めて総合的に持続性を高めることがねらいです。ここで何よりも大事なことは、学生と教職員の参加です。

サステイナブルキャンパスWG主査  
工学系研究科・サステイナビリティ学連携研究機構  
教授 花木 啓祐



# サステナな日々

～キャンパスから考えるサステイナビリティ～  
特別企画

いう「見える化」もやっていきます。さらに学内だけでなく、社会と連携しつつ、今後目指すべき**持続可能型社会モデル**も提案していきます。（詳しくは次頁をご覧ください。）これら3つのことを同時にやるというところがTSCPの特徴だといえます。そして、これらの準備が全て整ってからやり始めるとなると時間がかかってしまうので、その3つを柱にしながら、**できるところからどんどんやっていく**予定です。例えば見える化について、電力計の設置など全学一斉にやるのは難しいので、新しく建てる建物からやってみようとか、あるいは「**グリーン東大工学部プロジェクト**」（代表：情報理工学系研究科 江崎浩教授）で、工学部2号館を実験的にやろうということになっています。



### 大学がCO<sub>2</sub>排出削減に取り組む意義とは？

それは、**大学が社会をリードしなくてはならない**という一言に尽きるのではないのでしょうか。地球温暖化問題は、もはや避けては通れない問題であるので、「知のセンター」である大学としては、課題解決に向けて社会をリードしていかなければならないと思います。



### 7月1日に設置されたTSCP室の体制は？

TSCP室は、**東大本部全体を貫くような横断型の組織**です。具体的には、室長（教員）1名と専任の事務職員が3名配置されます。また、本部の環境安全系や調達グループ、広報グループなどの人にも室員として併任で入ってもらったり、専任の事務職員のうち1名は外部から採用したりするなど、内外の幅広い人材を使って、教員中心の組織であるサステイナブルキャンパスWGと一体的に運営していく予定です。



### 教職員・学生に期待することは？

これは普通の言い方になってしまいますが、とにかくこのプロジェクトは、**皆さんが協力してくださらないとできないこと**なんですよ。照明を替えるにしても、事前に調査をさせていただきたいし、替えるときのごたごたや工事中の騒音なども我慢させていただきたいです。

また、省エネ機器への交換によって、長期的にはコストが減っていくわけですが、最初のうちは初期コストが余計にかかるので資金面の協力もしていただかななくてはならないわけですね。

それから、例えば照明を高効率のものに替えても、使う人が誰もいないのに電気が付けっ放しになっていたら、全く効果がないですよ。結局は、環境やインフラをいくら整えてみても、ユーザーが如何に使うかというところがとても重要ですので、**個々人の働く場所、学ぶ場所で1人1人が可能な協力をしていただきたい**と思います。

「協力」というのはいろんなものがあると思うんです。**受動的に我慢するというのもそうですし、積極的に時間を使って何かをするということだけが協力ではありません。**例えば、TSCP室の職員に対して「よくやっていますね」と声をかけるだけでも協力ですよ。もちろん、学生サークルの環境三四郎のように直接的に行動してくれるというのも大歓迎です。また、**この分野に関する研究をしてもらいたいというのも大きな協力となります。**大学としては、やはり研究も重視していかなければなりません。今ある技術だけを使ってやるというのでは、大学としての使命は果たせないですから。



### 最後にメッセージをお願いします。

7月7日(月)から9日(水)には北海道洞爺湖サミットが開催されました。国内外からの注目が高まっている中、**東大としても今がチャンス**だと思います。

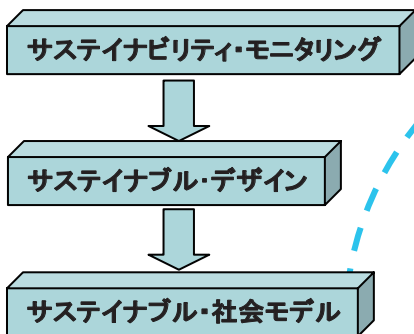
地球温暖化問題は先の長い問題です。いくらやってもこれで解決しましたという時はやって来ないと思います。でも、そこがおもしろいところだと思います。皆で電気を消して暗いところでやりましょうというようなものはおもしろくないですよ。この取り組みを大学構成員全員で**明るく元気にやっていきましょう。**



# サステイナブルキャンパスプロジェクト(TSCP)の概要

## TSCPの目指す形 一大学の活性化を図り、社会のモデルとなる

東大が推進するサステイナブルキャンパスプロジェクトは、単に低炭素キャンパスを作ることが目的ではありません。大学が有している知的資源を生かし、研究と教育の活性化を図りつつ、サステイナブルなキャンパスの実現に向けての先導的な試みを実践することによって、サステイナブルな社会の実現への道筋を示す—これが東大サステイナブルキャンパスプロジェクト(TSCP: Today Sustainable Campus Project)の目指す姿です。



上図のとおり、温室効果ガス排出の少ないキャンパスの実現に向けて、**的確な状況把握**(サステイナビリティ・モニタリング)を行いながら、低炭素化を実現するために**的確な対応設計**(サステイナブル・デザイン)を実施するとともに、**総合的な実施・評価**を行います。これにより、今後目指すべき**持続型社会モデル(サステイナブル・社会モデル)**を提案していきます。これらを図に示すような**共進化システム**として同時進行的に、かつ効果的・効率的に実行を進めます。

### 低炭素社会とは??

地球温暖化の主因となる代表的温室効果ガスの二酸化炭素の最終的な排出量が少ない産業・生活システムを構築した社会のこと。大学が低炭素キャンパスを実現することで、社会のモデルとなりうるのです！



## 1. 自律分散協調系の最適化 —「見える化」の実践

TSCPの実行においても大学全体における「自律分散協調系」の取り組みが不可欠です。

プロジェクトの推進には、キャンパスにおける膨大かつ多様なエネルギー需要と消費についての情報収集のための基盤整備を行ない、それに基づいてキャンパス全体のエネルギー消費を最適化し、温室効果ガスの低減を図ることが必要です。建物、研究室、部屋単位でエネルギー消費の状況が示される「見える化」を進展させます。

## 2. 低炭素化:低炭素キャンパスづくりにむけて

TSCPの対象とすべき環境負荷は多岐にわたりますが、問題の緊急性、困難性と大学が先導的役割を果たす必要性の高さから、温室効果ガス排出削減による低炭素キャンパスづくりを当面の最優先課題として取り組んでいきます。

多様な対策メニューから、まず以下のような分類を行い、戦略的に実行へ移していきます。

- ★実施主体の分類 施設管理側or利用者側
- ★優先度の分類 ①速やかに実施すべき対策か、②順次実施すべき対策か、③建物の更新と共に実施すべき対策か

## 3. 社会連携機能 —大学が社会を先導！

低炭素社会のモデル地区として大学キャンパスを位置づけ、都市などでの低炭素化の実現可能性を示していきます。また、モニタリング設備や機器、低炭素型の電気機器を大量購入することによる低廉化、さらに共同開発をすることによって、低炭素化の実現可能性を高めると共に、低炭素化を進めることによる産業の創出と経済の活性化を目指します。



# 数字で見る東大のCO<sub>2</sub>排出量

## -本郷キャンパスは東京都の事業所(事務系)で最大-

アクションを起こすには、まずは現状を知ることから。ワーキンググループで分析したデータをもとに、現在の東大におけるCO<sub>2</sub>排出量を数字で追ってみます。

### 東大のCO<sub>2</sub>排出量の概略 (2006年度)

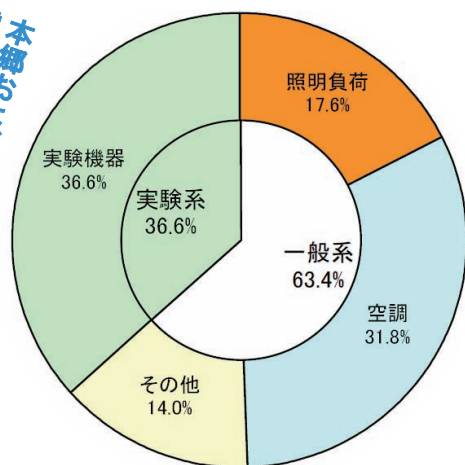
- 5キャンパスで**136,000トン-CO<sub>2</sub>/年** (0.10トン-CO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup>-年, 3.9 ton-CO<sub>2</sub>/人-年)
- 本郷キャンパス**90,000トン-CO<sub>2</sub>/年** ←東京都の事業所(事務系)で最大。 ※ただし、床面積あたり排出量は平均並み。
- 電力が主なCO<sub>2</sub>源 **79%**
- 平均の電力消費量 ー理系部局・病院: **240 kWh/m<sup>2</sup>-年** ー文系部局: **72 kWh/m<sup>2</sup>-年**
- 出張に伴うCO<sub>2</sub>: **25,000トン-CO<sub>2</sub>/年** ー90% が海外出張 ※上記5キャンパス総計の136,000トン-CO<sub>2</sub>/年には含まれていない。

### 東京大学5キャンパスのエネルギー消費量と二酸化炭素排出量 (平成18年度)

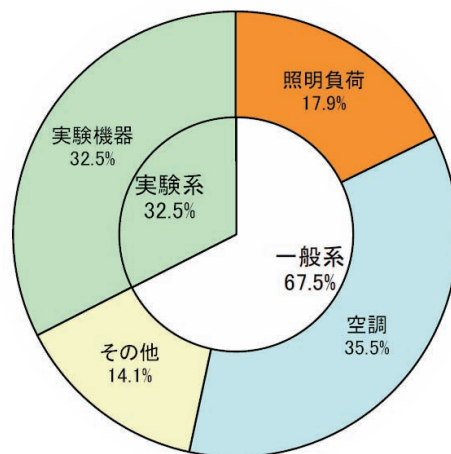
キャンパス	エネルギー源別消費量			CO <sub>2</sub> 総量 (t-CO <sub>2</sub> )	CO <sub>2</sub> 排出量燃料別構成(%)			床面積あたり CO <sub>2</sub> (t/m <sup>2</sup> )
	電力(kWh)	都市ガス(m <sup>3</sup> )	A重油(kℓ)		電力	都市ガス	A重油	
本郷	193,675,751	7,409,497	843	90,662	79	19	3	0.10
駒場1	18,507,920	559,147	0	8,102	84	16	0	0.06
駒場2	23,088,480	31,419	0	8,569	99	1	0	0.07
白金	26,944,080	2,579,292	159	16,301	61	37	3	0.19
柏	30,945,600	311,300	0	12,107	94	6	0	0.10
5団地合計	293,161,831	10,890,655	1,002	135,740	79	19	2	0.10

注：電力消費量あたりのCO<sub>2</sub>排出量は、供給元の東京電力の17年度の値として環境省によって認定されている0.368 kg-CO<sub>2</sub>/kWhを用いた。また、都市ガスは2.31 kg-CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>、重油は2.71t-CO<sub>2</sub>/kℓである。

本郷および駒場2キャンパスの電力消費の内訳の概略

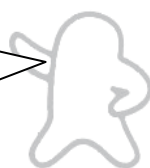


本郷キャンパス



駒場2キャンパス

実験系が約3割、空調3割、照明2割弱ということは、約7割が実験系以外での消費ということがわかった！よし、これを当面の削減対象としよう！！



CO<sub>2</sub>削減の可能性はある！  
いよいよアクションプランへ

## TSCPアクションプラン

TSCPのワーキンググループでは、まず省エネ対策の可能性について定量的な検討を行いました。とりわけ大型熱源機器の更新、照明器具の人感センサー設置、蛍光灯のインバーター化、冷蔵庫の更新、個別空調（ルームエアコン）の更新について、得られる効果とそれに要する投資金額及び省エネによる節減金額を算出し、2012年、2030年に向けてのアクションプランを次のように策定しました。

### ■ 第1フェーズ（2008年4月～2013年3月）

## TSCP-2012～2012年度までにCO<sub>2</sub>排出15%削減～

2008年度から2012年度に至る5年間の第1段階を「TSCP-2012」とし、CO<sub>2</sub>排出量を2006年度比で15%削減するため、以下の内容を実行します。

#### ①モニタリングとフィードバック

電力計設置（見える化）により、教育・研究活動の増加による排出増加分を相殺します。

#### ②省エネ機器への更新支援

投資回収年数が機器更新年数の半分以下のもの、初期投資額に比して年間CO<sub>2</sub>削減量の大きいものから高効率の省エネ機器へ更新していきます。

（例）附属病院の冷凍機の更新、一般冷蔵庫・ルームエアコン等の更新、蛍光灯のインバーター化等

回収年数が4年を超えるものについては、初期投資の補助も検討します。

これらの更新により、大型熱源系の省エネ化で**6.3%**の削減（初期投資額5.1億円）、照明・個別空調・冷蔵庫などの更新で**7.1%**の削減（25.8億円）が見込まれます。

#### ③大量調達による省エネ機器導入普及モデル

大量調達によりコストを抑え、社会に発信可能な省エネ機器導入普及モデルを作ります。

#### ④2030年までにCO<sub>2</sub>排出を50%削減するためのアジェンダ作り

初期投資が回収できた後は、光熱費が削減できる対策を対象とし、2030年に向けたアジェンダ（TSCP-2030）を策定します。

主要5キャンパスの省エネ機器更新により見込まれる  
CO<sub>2</sub>削減量・初期投資額(推計)

	削減量	初期投資額
(単位)	ton/年	千円
熱源系対策合計	8,560	513,511
個別機器対策合計	9,574	2,575,556
計	<b>18,134</b>	<b>3,089,067</b>



初期投資はかかりますが、部局負担額は平均3.3年で回収できる見込みです。

2006年度比で**13.36%**の  
CO<sub>2</sub>が削減できる！

この試算に基づき、TSCP-2012では、実験系を除く一般系でCO<sub>2</sub>排出量の15%削減を目指します。

## ■ 第2フェーズ (2013年4月～2030年3月)

### TSCP-2030 ～2030年度までにCO<sub>2</sub>排出**50%**削減～

TSCP-2012終了後は、2030年度を目標年次とした計画を実施していきます。ここではTSCP-2012の期間中にはコストを含めて実用段階になかった技術を導入できることが期待されます。また、設備更新に合わせた高効率機器の導入が可能であり、さらに創エネルギー（太陽光発電など）を本格化させます。

これらにより、2006年度に比べCO<sub>2</sub>排出量50%削減を目標とし、2012年までにその具体案を検討していきます。

#### ☆コラム☆ G8大学サミットを終えて

北海道洞爺湖サミット直前の6月29日(日)～7月1日(火)、北海道・札幌にて各国の大学学長らが集う初めての「G8大学サミット」が開催されました。サミットメンバー国の8か国に、中国、インド、ブラジルなどを加えた計14カ国35大学の学長らが参加しました。

「グローバル・サステナビリティと大学の役割」というテーマのもと、全体会と2つの分科会（「グローバル・サステナビリティを支える新しい科学的知識と国際研究ネットワーク (Network of Networks; NNs)」と「グローバル・サステナビリティのためのナレッジ・イノベーションと教育」）の中で、さまざまな議論が交されました。

サステナブル・キャンパスの取り組みは、大学サミットにおいても重要なテーマの1つであり、各大学の取り組みが紹介されると同時に、大学がキャンパスを実験場として社会のモデルを示していくことの重要性が強調され、最終日全体会にてまとめられた「札幌サステナビリティ宣言 (SSD)」にも盛り込まれました。これはまさに本学TSCPの精神に沿うものであり、今後、世界中の大学との連携の中で推進することが期待されます。



小宮山総長が議長を務めた  
全体会の様子

**全学の皆様、TSCPへのご協力よろしくお願い申し上げます。**

記事作成：本部研究機構等支援グループ（担当 手塚・神谷 内線21387）

TSCPに関する問い合わせ先：TSCP室（担当 迫田・河野 内線20500）

# NEWS

## 一般ニュース

### 本部キャリアサポートグループ 知の創造的摩擦プロジェクト第6回 交流会開催

6月7日(土)本郷キャンパス御殿下ジムナジウムにおいて、知の創造的摩擦プロジェクト第6回交流会「10年後の自分を描けていますか?」が開催された。

これは各界で活躍する本学の卒業生との交流を通して、学生のキャリア形成支援を目指す大学主催のイベントで、2005年10月に本郷キャンパスにて第1回が開催された。その後各年、駒場Iキャンパス、本郷キャンパスで1回ずつ開かれ、今回が第6回目。約100名の卒業生と400名を超える学生が参加した。

13時から御殿下ジムナジウムで第一部が、17時30分から中央食堂にところを移して懇親会を兼ねての第二部が開かれ、途中適宜グループを替えながら、19時まで、なごやかに、けれども熱い会話の輪が広がった。

本イベントの企画、運営等は、卒業生有志の集い「東京大学三四郎会」と、本学学生サークル「東大ドリームネット」の多大なる協力のもとに行われたものである。第一部を締めくくるにあたっての卒業生代表による「回を重ねることによって、卒業生にとってもさらに新しい刺激に出会える場となっている」旨の挨拶にも窺えるように、学生と卒業生がともに主体的に参画するいわば「東大コミュニティ」ともいべき交流の仕組みの熟成への道が開け始めている。



広がる会話の輪

### 産学連携本部、国際連携本部

### 欧州委員会ポトチュニック委員講演会 ～EU研究政策と日・EU研究協力～ 開催される

6月16日(月)13時より、医学部教育研究棟14階の鉄門記念講堂にて、欧州委員会ポトチュニック委員講演会～EU研究政策と日・EU研究協力～が開催された。これは、G8洞爺湖サミット準備閣僚会議に出席のため、EU(欧州連合)欧州委員会研究担当委員、ヤネス・ポトチュニック博士の来日に合わせて、欧州連合駐日欧州委員会代表部と本学が共催して講演会を開催するにいたったものである。

ヤネス・ポトチュニック博士のEUの科学イノベーション政策、日・EUの研究者ネットワークなどの講演に続き、欧州連合担当官より、日欧の学生から研究者まで幅広い人材交流をカバーする3つのプログラムの紹介があった。1つめは、EU FP7(第7次研究枠組み計画)の主要テーマでもある『マリー・キュリー(Marie Curie)プログラム』、2つめは『エラスムス・ムンドゥス(Erasmus Mundus)プログラム』。3つめは、日欧産業協力センター(欧州連合と経済産業省の共同設立機関)が実施している、日本とEU加盟国の理科系大学生と大学院生を対象としたインターンシップ制度である『ヴルカヌス(Vulcanus)プログラム』である。

参加者は約180名で、留学生の参加も多く見られた。講演終了後の質疑応答では、プログラムに関心をもつ学生や研究者からの質問が数多く見受けられた。本学での活用が期待される。



懐徳館の庭園にて





講演後の質疑応答の様子

### 本部人材育成グループ

#### NEC 佐々木代表取締役会長が新人職員に講話



6月17日（火）15時から、本部棟12階中会議室にて日本電気株式会社代表取締役会長の佐々木元氏を講師に迎え、新人職員27名へ向けて講話が行われた。

これは、平成20年度東京大学新人採用職員能力開発プログラムで、本学の役員等から新人職員に対して講義を行うトップセミナーの一つとして行ったもので、本学経営協議会委員でもある佐々木氏に講演を依頼したところ、快くお引き受けいただき実現したものである。

当日はまず、佐々木氏と新人職員全員との間で名刺交換が行われ、名刺交換の際には、佐々木氏から新人職員一人ひとりへメッセージをいただいた。新人職員の中には、社会人となってこの日が初めての名刺交換となる者もあり、会場は緊張感に包まれた。



佐々木会長と名刺交換を行う新人職員

続く講話の中で佐々木氏は、社会人としての在り方、大学に求められるもの、東京大学への期待について話された。企業等の構成員としては、問題を解決するという意識を持って組織的に活動し、傍観者ではいけないと説かれ、企業等存続のためには企業倫理の徹底やCSR（企業の社会的責任）への積極的な取り組みが非常に重要であることを、自社の取り組みなどの紹介を交えながら力

説された。更に大学に関しては、現在求められている様々な課題を挙げて説明され、本学への期待としては、「東京大学が世界の大学に伍して更なる高い評価を得ることを卒業生の一人として期待している。是非そういう高い目線でものを見て欲しい。しかし足元はしっかりと」と話され、新人職員は真摯な面持ちで受け止めていた。



講話をされる佐々木会長

講話の後の質疑応答では、「NECの新入社員へ何を期待されるか」という質問に、佐々木氏は、「ひらめきを現実の事業に結びつけてほしい。成功というのは全ての人の目の前を通り過ぎていくが、成功する人というのは、恐れを抑えてそれを掴み取る人。そういう人になってほしい」と答えられ、本学の新人職員も、自分たちへの言葉としてとらえ、熱心に聴き入っていた。

7月から業務に就く新人職員にとって、非常に貴重な1時間となった。

### 本部キャリアサポートグループ

#### 平成20年度第1回教職員のための「学生のメンタルケア」講習会を開催



平成20年度第1回教職員のための「学生のメンタルケア」講習会が、6月23日（月）に工学部2号館213大講堂において開催された。

4月1日（火）に、相談業務の中核として、全学の相談部門と連携することにより、大学全体の支援機能の強化を図る目的で、学生相談ネットワーク本部（以下、「本部」という）が新設され、学生支援体制の充実が図られたところである。

最近、人間関係の悩みから学習・進路の悩みまで、学生相談の窓口などに寄せられる学生のニーズが質・量とも増大し、悩みを持つ学生は一部の学生のみではなくなっており、大学が支援機能を強化することが喫緊の課題となっている。

こうした状況を受け、本部に所属する企画室、学生相談所、精神保健支援室の教員が講師を務め、教職員に対して精神医学の基礎知識から実際の応用まで幅広く学ぶ機会として本講習会は企画されたものである。午前は、

本部精神保健支援室長の佐々木司准教授、飯田由美助教、保健センター精神科の井野英江心理士による講義「学生のこころのケア～精神疾患の基礎知識と大学での具体例～」が行われた。午後は、古田元夫本部長からの挨拶の後、本部企画室長の亀口憲治特任教授、本部学生相談所長の倉光修教授による講義「学生にいかに対応するか～カウンセリング技法をとりいれて～」、学生相談所の教員らによる演習「学生対応のトレーニング」が行われた。参加者 81 名（19 部局）は熱心に講習に取り組んだ。今回は受講対象者を職員だけでなく教員にも広げた結果、参加者のうち教員は 32 名で、質疑応答が活発に行われ、学生対応への関心の高さが窺えた。

なお、本講習会は今後、駒場地区及び柏地区においても実施する予定である。



古田学生相談ネットワーク本部長からの挨拶



講義「学生のこころのケア」

#### 環境安全本部

「東京大学教職員・学生のための救命講習」開催される

一般

6月27日（金）9時30分から12時30分まで、本郷消防署の指導のもと、「東京大学教職員・学生のための救命講習」が、医学部教育研究棟13階第6セミナー室で実施された。今回の救命講習では、事故発生時の救命活動に対する内外の関心が高まったことを反映してか、5月23日（金）に東大ポータルサイトに掲載した段階から、多くの参加希望が寄せられたため、定員枠も30

名から40名に拡大され、最終的には39名が参加することとなった。役職別では教授3名、講師2名、助教6名、研究員4名、大学院生5名、事務職員等19名、部局別では、工学系研究科・工学部からの参加者が12名と最も多かった。参加者は、3時間の講習時間を通して、心肺蘇生、自動体外式除細動器（AED）※の使用方法、止血の方法などを学んだ。参加者には本郷消防署長の認定する「救命講習修了証」も交付される。次回講習は、10月ごろ開催する予定である。

#### ※自動体外式除細動器（AED）

Automated External Defibrillator のこと。突然、心停止状態になった傷病者の心臓に電気ショックを与えて、正常な脈拍を取り戻させるための医療機器です。2007年7月より、医療従事者以外の方でも使用できるようになりました。ただし、何回も使用することが予想されるような場合は、上級救命講習を受講し、認定が必要です。

#### ※参考情報

##### ■学内広報 2007年5月 NO.1358 (2007. 5.30)

「環境安全本部、学内にAEDを配置！

－ [保存版] 救急救命マニュアル －」

<http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou/1358/index.html>

##### ■環境安全本部 HP

TOP → 資料 → AED 設置場所

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/office/anzeneisei/data/aed.html>



心肺蘇生には、体力が必要です！

（本郷消防署員1名が1チーム10人を指導します）



AEDを使った緊急時を想定した訓練も行いました

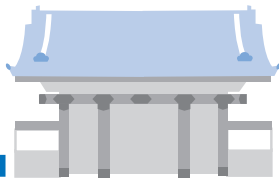


6月17日（火）に開かれた教育研究評議会で、東京大学名誉教授授与規則により、次の元教授14名に名誉教授の称号を授与することになった。

No.	部局	氏名	担当講座名
1	大・法	蒲島 郁夫	政治学講座
2	大・法	中山 信弘	ビジネスロー・比較法政研究センター
3	大・法	西田 典之	公法系講座
4	大・法	碓井 光明	公法系講座
5	大・法	能見 善久	私法系講座
6	大・医	上西 紀夫	外科学専攻臓器病態外科学講座
7	大・医	北村 唯一	外科学専攻臓器病態外科学講座
8	大・文	吉田 光男	韓国朝鮮歴史社会講座
9	大・理	江口 徹	数理物理学講座
10	大・養	恒川 恵市	北米・中南米地域文化講座
11	大・育	汐見 稔幸	教育学講座
12	学環	花田 達朗	ジャーナリズム・メディア研究
13	社研	原田 純孝	比較現代法部門
14	生研	安岡 善文	人間・社会系部門

平成20年度名誉教授候補者14名

# 部局 ニュース



医科学研究所

第35回医科学研究所創立記念シンポジウム開催される

部局

今年で35回目となる医科学研究所創立記念シンポジウムが、5月30日(金)13時から医科学研究所講堂において、「がん幹細胞」というテーマで開催された。本シンポジウムは、医科学研究所が1967年に伝染病研究所から改組されたのを記念して、1974年から毎年6月1日前後に開催されてきた。

昨年、京都大学の山中教授による「iPS細胞」が世界的なトピックとなり、本研究所ではこれに関連したオールジャパンプロジェクトの一角を担っていくこととなっており、本年4月には、幹細胞治療研究センターが新設された。

現在、がん研究分野において、「がん幹細胞」という考え方は、がんの発生の理解や治療に革新をもたらす可能性として注目されており、このような状況下で、本シンポジウムが開催された。

清木元治所長の開会の辞に引き続き、本研究所人癌病因遺伝子分野村上善則教授による「新規がん抑制遺伝子CADM1/TSLC1の機能解析」、同幹細胞治療研究センター幹細胞治療部門(旧再生医療の実現化プロジェクト幹細胞制御領域)服部浩一特任准教授による「がん病態における幹細胞制御機構」のあと、20分の休憩をはさみ、慶應義塾大学医学部生理学教室岡野栄之教授による「幹細胞医学と神経再生」、国立がんセンター研究所分子腫瘍学部北林一生部長による「白血病幹細胞とその制御機構」、最後に理化学研究所神戸研究所発生・再生科学総合研究センター分化転換研究チーム近藤亨チームリーダーによる「グリオーマ幹細胞」について、各々40分間の講演が行われた。

講演内容の詳細やプログラムについては、医科学研究所ホームページで公開している。

(<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/>)



講演を行う本研究所村上教授

講演会場は、例年のことであるが、所内外からの多くの聴講者で満席となり、本シンポジウムへの関心の高さが窺われた。

また、本シンポジウムに先立ち、前日の5月29日(木)13時30分から講堂を会場に、本研究所所属の若手研究者による1分間スピーチ「フラッシュトーク」(研究成果発表会)が昨年に引き続き開催され、若手研究者が熱心に研究成果報告を行うと伴に、「研究成果ポスター発表会」が、5月29日(木)～30日(金)の2日間、2号館大講義室でフラッシュトークと連動する形式で行なわれた。



(写真左) フラッシュトークに熱心に聴き入る聴講者

(写真右) 研究成果ポスター発表会場

研究成果発表については、51件のポスター発表の中から、教員の投票により最優秀ポスターが選ばれ、シンポジウム終了後の野外パーティーにおいて、所長から表彰状が授与された。



ポスター発表会表彰式

## 大学院総合文化研究科・教養学部

### 人間の安全保障でゼーリック世銀総裁と政策対話

大学院総合文化研究科・教養学部では、5月30日（金）13時より、アフリカ開発会議（TICAD）に出席するために訪日したロバート・ゼーリック世界銀行グループ総裁が、本学関係者と「世界銀行の使命と人間の安全保障」というテーマで、総合文化研究科と国際連携本部の共催の政策対話を医学部教育研究棟・鉄門記念講堂で行った。

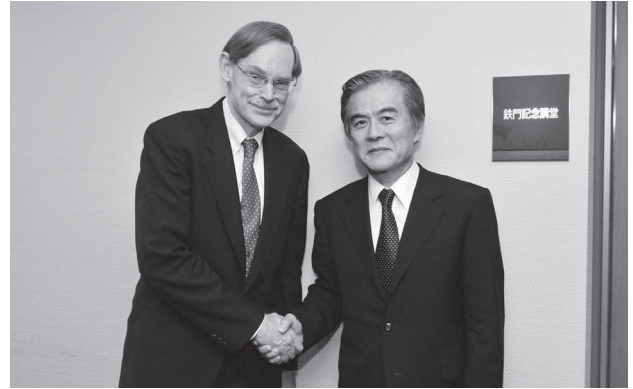
ゼーリック氏は、昨年7月に第11代世界銀行グループ総裁に就任し、最初の政策演説で、世銀の取り組むべき重点課題として貧困削減、平和構築、知識戦略など6つの政策課題を掲げた。本学では、2004年に総合文化研究科に「人間の安全保障」プログラムを設置して、国際貢献を目指す大学院教育を推進しており、2006年からは教養学部前期課程で「平和構築論」を開講している。このような背景を踏まえて、本学と世界銀行との共通の問題関心である貧困削減や平和構築などについて話し合う機会を実現させるべく、小宮山宏総長がゼーリック総裁を本学に招待していたところ、今回、実現の運びとなった。



講演するゼーリック総裁（写真提供：世界銀行）

ゼーリック総裁は特に若い世代との率直な政策対話を望んだために、一般公開とはせず、原則として参加者を本学関係者のみに限定した。木村秀雄総合文化研究科副研究科長の総合司会により、小宮山宏総長の冒頭挨拶から政策対話が始まった。全体のモデレータは、ゼーリック総裁と個人的にも親しい船橋洋一朝日新聞主筆をお願いした。第1部の教員とのパネル討論には、総合文化研究科から佐藤安信教授と遠藤貢教授が参加した。第2部の大学院学生との質疑には、総合文化研究科や経済学研究科に所属する博士課程の学生3人が質問した。ガバナンス、アフリカの開発、中国の役割、世銀プロジェクトのアセスメント・改善、農業開発の位置づけ、災害復興支援など、21世紀国際社会における人間の安全保障を脅かしている広範な課題をめぐって討論が展開した。教職員や学生を中心に約250人が来場し、盛会だった。

政策対話の直前には小宮山総長とゼーリック総裁とが会談した。ゼーリック総裁が打ち出している知識戦略をめぐって、小宮山総長が本学の取り組み（知の構造化）を紹介するなどして、実質的な協議が行われ、今後本学と世銀との協力・連携の可能性を探ることに合意した。これを契機に、本学と世界銀行との将来の協力・連携の可能性を探る長期的な展望が開けることを期待している。



ゼーリック総裁と小宮山総長（写真提供：世界銀行）

## 医科学研究所

### International Student Research Forum 2008 に参加

6月1日（日）～6月3日（火）の3日間、米国ネブラスカ州オマハの University of Nebraska Medical Center (UNMC) にて International Student Research Forum 2008 が開催された。このフォーラムは本年が第4回目となり、参加機関は過去最多の6ヶ国6機関、また北京（中国科学院）と東京（医科学研究所）以外での初めての開催であった。本学からは大学院生4名、教員1名が参加し、研究発表会をメインに、見学、研究交流をおこなった。本フォーラムは、国境と研究分野をこえた研究者間の交流を通じて新しい人間関係を築き上げ、将来の共同研究などに結びつけることを目的とする。各セッションの座長を学生が担当するなど、学生が主体となり、まさに学生による学生のためのフォーラムであったと言える。

#### （参加者の感想：大学院生 池田聡史さん）

初めに、僕らの滞在中、非常に手厚いもてなしを頂いたことに対し、尊敬と感謝の意を表したい。異文化で異分野の研究、それでも通じるものがあつた。それは科学が好きだという気持ちによるものだと思う。研究発表時はもちろん、お酒を飲みながらでもいつの間にか研究の話になり、最後の夜には中国の学生と「また、中国かアメリカか日本で会おう」と約束し別れた。今回感じたことは、「文化が違えば学べることも違う」ということ。アメリカでは、日本人研究者の真面目でひたむきな姿に対する評価が高かつた。それが日本で学べる研究姿勢だろうが、異文化ではまた違う能力が養われるはずだ。今

は普段の研究生活に戻り、今回感じた「何か」を具体的な形にする為に研究と英語の勉強に励んでいる。



代表者フラッグ交換



参加者集合写真

#### 情報基盤センター

部局

**T2K オープンスパコン東大版システム運用開始。国内最大規模のスーパーコンピュータに**

6月2日(月)情報基盤センターでは、T2K オープンスパコン東大版システムの運用を開始すると記者発表した。このT2K オープンスパコンは、東京大学情報基盤センター、筑波大学計算科学研究センター、京都大学学術情報メディアセンターの3大学が共同開発した仕様を基に3大学がそれぞれにスパコンを調達したものであり、東大版は総演算性能140テラフロップスを有し、国内最速のスーパーコンピュータとなるものである。(平成19年11月の時点で世界のスパコン順位10位。20年6月時点国内第1位の見通し)

同日、武田先端知ビル武田ホールにおいて、第一部「T2K オープンスパコン東大版システム運用開始式典」、第二部「T2K シンポジウム-T2K オープンスパコンによるペタスケール計算への道-」が開催された。大学関係者77名と一般企業86名の163名の参加者を迎えて盛会のうちに終わった。

第一部の式典は、米澤明憲情報基盤センター長の開催挨拶に始まり、岡村定矩理事・副学長の祝辞に続き、勝野頼彦文部科学省情報課長から祝辞があった。引き続き、石川裕情報基盤センター教授から、T2K オープンスパコン東大版と新サービスの紹介があった。

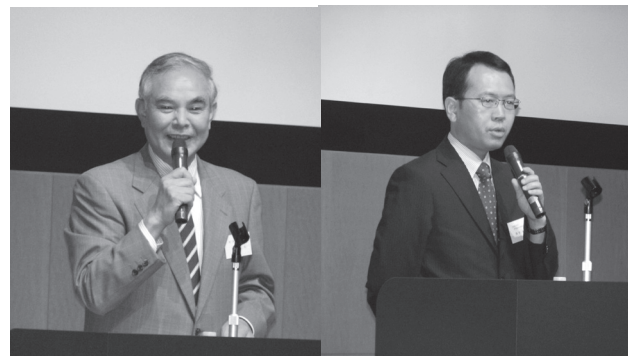


記者発表をする米澤センター長と石川教授

第二部のシンポジウムは、同会場にて、筑波大学、京都大学とTV会議システムを使用して開催された。初めに、米澤センター長の開催挨拶に始まり、美濃導彦京都大学学術情報メディアセンター長、朴泰祐筑波大学計算科学研究副センター長の挨拶の後、関根仁文部科学省情報課情報科学技術研究企画官の挨拶があった。

引き続き、関根仁文部科学省情報課情報科学技術研究企画官がパネリストとして発表の後、姫野龍太郎理化学研究所情報基盤センター長、吉川耕司筑波大学計算科学研究センター講師、朴泰祐筑波大学計算科学研究副センター長、羽角博康東京大学気候システム研究センター准教授、片桐孝洋東京大学情報基盤センター特任准教授、大村善治京都大学生存圏研究所教授、中島浩京都大学学術情報メディアセンター教授による発表が行われた後、活発な意見交換がなされた。

本センターでは、3大学間で協定を結び、T2K オープンスパコンを利用した計算科学・工学分野におけるネットワーク型研究推進、人材育成、アプリケーション高度化支援体制が始動したところである。



式典で祝辞を述べる岡村理事・副学長(写真・左)と勝野文部科学省情報課長(写真・右)



T2Kシンポジウム



東照宮前



木彫り



みんなでジャンピング〜

大学院法学政治学研究科・法学部、大学院公共政策学教育部

留学生見学旅行を実施

部局

6月5日(木)・6日(金)の2日間、法学政治学研究科・公共政策学教育部合同で留学生の日光・鬼怒川見学旅行を実施した。参加者は、留学生36名、引率の教職員5名の計41名であった。

集合時間が7時45分と早かったにもかかわらず、出発予定時刻8時少し過ぎに大型バスで本郷キャンパスを出発できた。天候はすでに梅雨入りしてしまっていたせいか曇り空だったが、みんなの気持ちは晴れ渡っていた。

東北道は思いのほか閑散としていて、予定の1時間前に磐梯ドライブイン日光に到着し、11時前の昼食となってしまった。昼食後、ゆっくり2時間以上時間をかけて壮大な世界遺産の一つである日光東照宮を見学した。

次に訪れたのは、木彫りの里工芸センター。指導員による説明の後、全員で小さな手鏡の背面に桜の花を彫刻した。木彫り体験が、旅行中一番印象に残ったことの一つに挙げられており、作品は大切な記念品になった。

見学と体験を終えて、露天風呂もある温泉つきホテルに到着した。夕食はビュッフェ形式だったので、みな思う存分好きな料理を食べ満足そうだった。夕食後は恒例の懇親会でゲームを2つ行い、2時間ぐらい親睦を深めた。しゃべり足りない人たちは、宴会部屋に集い、温泉を楽しみにしていた人は、温泉風呂に向かっていった。

翌朝は、9時にホテルを出発し東武ワールドスクウェアを見学した。その後、日光江戸村に移動し自由行動。留学生にとっては、忍者屋敷や花魁ショーが非常に印象に残ったようだ。帰りの交通も順調で、予定どおり17時前に大学に到着し、全員笑顔で解散した。

参加者に旅行のアンケートを取ったところ、印象に残ったことは日光江戸村を訪れたことが一番多く、次に木彫り体験、東照宮と続いた。2日とも少し雨に降られたが、日本のすばらしい文化遺産を見学し、共通の体験を通じて親睦が深まって、みな楽しく有意義な時間を過ごすことができた。

生産技術研究所

フランス高等教育・研究大臣の来訪と講演会

部局

梅雨の中休みのさわやかに晴れ渡った6月13日(金)に、フランスから Valérie Pécresse (ヴァレリー・ペクレス) 高等教育・研究大臣一行が、駐日フランス大使 Philippe Faure (フィリップ・フォール) 氏とともに生産技術研究所に来所し、設立14年目を迎えたマイクロ・ナノメカトロニクスに関する日仏国際共同運営ラボ LIMMS/CNRS-IIS を見学した。

大臣はサルコジ内閣で最も若手の大臣として活躍中であり、大学院時代には日本に滞在した経験もあるアク

ティブな女性大臣である。所長室では、本学を代表して岡村定矩理事・副学長も臨席し、前田所長他 14 名と和やかに昼食をともにした。クリーンルーム見学では MEMS（微小電気機械）デバイスに大変興味を示され、何度も顕微鏡を覗く姿に、好奇心旺盛の人柄がうかがわれた。

LIMMS/CNRS-IIS で日仏の연구원たちと談笑した後に、当日のメインイベントが行われる講演会場に向かわれた。岡村理事・副学長からの挨拶に続き、「高等教育と研究：日仏両国の架け橋」という、日仏交流 150 周年に相応しい内容の講演をいただいた。大臣の講演は、冒頭の 5 分が明瞭な日本語で行われ、250 名収容の会場に立ち見ができるほどの聴衆を大いに喜ばせた。日仏両国のさらなる研究交流を展望し、拍手喝采の中、会場を後にした。



MEMS（微小電気機械）デバイスの説明を受ける大臣



ヴァレリー・ベクレス高等教育・研究大臣の講演

大学院教育学研究科・教育学部

部局

**宮下充正名誉教授**  
**「秩父宮記念スポーツ医・科学賞」受賞**

スポーツ医・科学の分野で最高の権威ある「秩父宮記念スポーツ医・科学賞」の大賞“功労賞”を、6月18日(水)に本学大学院教育学研究科の宮下充正名誉教授が受賞されました。



宮下充正先生は、わが国のスポーツ科学が東

京オリンピックを契機に本格的な発展を始めた創始期に研究に携わり、幅広い研究活動を今日に至るまで精力的に行ってきました。昭和 50 年には、スイミングミルという装置がない当時、回流水槽を用いて体型・体格の異なる日米トップスイマーの人体水抵抗を測定・比較したり、1 秒間に 500 コマという高速度カメラを用いて水中での水泳フォームを分析したりという、世界に類を見ない研究を行いました。続いて、「高所トレーニング」の研究に取り組みその効果を実証し、今日の世界的な高所トレーニング発展への道筋を開きました。このような研究成果を踏まえて、「トレーニング科学」の体系化に取り組み、スポーツ選手のトレーニングの方法論を確立しました。

宮下先生の実学を重んじる姿勢は、運動不足が原因の一つである生活習慣病が問題にされると、だれでもどこでも実践できるウォーキング、過体重の人や下肢に障害のある人でも容易に実践できる水泳・水中ウォーキングの普及につとめ、科学的バックアップをする日本ウォーキング学会、日本水泳・水中学会などを創立しました。このような実践的な学会の草分けとなる学会活動もまた、宮下先生の真骨頂といえます。さらに、高齢化が進んだ近年は、高齢者の運動実践をうながす研究に情熱を注ぎ、「身体福祉論」を提唱、福祉施策の中に身体運動を取り入れる重要性を指摘し、スポーツ科学の知見を福祉の分野にも活かそうと尽力されています。

教育者としても東京大学在任中に、体育学・スポーツ科学の教育に当たり多くの優れた研究者、教育者を輩出し、今日のわが国の体育・スポーツ科学の第一線で活躍されていることは広く知られるところであります。これからも先生のご健康とますますのご活躍を期待しております。



工学系等地震訓練が行われる

部局

6月18日（水）昼休みに、工学系等（工学系研究科、情報理工学系研究科、工学部、VDEC、IML）において地震訓練が実施された。訓練は全員参加で、教職員、学生など2000人以上が参加した。講義中の学生も教員の引率で訓練に参加した。工学系等地震訓練は平成11年度から毎年度行われており、今回で10回目の実施となる。今年度の訓練にあたって、昨年度までに指摘された問題点を考慮し、講義室へのスピーカーの設置や屋外スピーカーの増設など、放送設備改善を事前に行った。また、今年度の訓練からの新しい試みとして、工学系等災害対策本部と大学本部との通報連絡訓練を実施した。

訓練は突発地震発生時の対応行動訓練を目的とし、初期対応→緊急対応→避難→安否確認、という地震発生時の対応マニュアルに沿った行動が、号館対策部（各建物の対策本部）と工学系等対策本部の間で連絡を取りながら進められた。

「訓練地震発生！」という一斉放送により、11時40分に訓練が始まった。まずは初期対応として、身の安全を図る、火の始末、避難路の確保などを行う。その後、工学部列品館に災害対策本部、各号館に対策部がそれぞれ設置され、緊急用PHSを用いて各建物と災害対策本部との連絡が開始された。さらに、各建物であらかじめ想定された被害（薬品漏洩や火災、けが人の発生など）に応じて緊急対応をとりながら、建物ごとに指定された避難場所に避難。この間、号館対策部は災害対策本部に逐次状況を報告し、災害対策本部では連絡を受けた内容を記録班員がボードに記入することにより、全体の状況を把握した。避難完了後は、各避難場所で、工学系等の全構成員が携帯している安全カードを用いた安否確認が行われ、訓練が終了した。東京大学災害対策本部に状況報告を行う通報連絡訓練も行われた。

訓練終了後は、本部長の保立工学系研究科長、東京消防庁本郷消防署の久保田予防課長、避難行動の専門家の関沢教授（都市工）の講評が一斉放送で参加者に伝えられ、中尾安全衛生管理室長の挨拶で地震訓練が締めくくられた。



避難・安否確認訓練中の参加者



実験中でも訓練に参加

参加者の感想で多かったのは、訓練実施の直前に中国四川や岩手・宮城で大きな地震があったため緊張感を持って訓練に望んだ、というものであった。今年度は事前に放送設備改善を行ったため、一斉放送が聞き取りやすくなった。しかし、場所によっては放送が聞こえにくい、PHSによる災害対策本部への連絡がつながりにくいなどの問題点も報告されたので、来年度以降の課題としたい。



一斉放送で講評する保立工学系研究科長

附属図書館

柏図書館で「第2回わくわくミニコンサート」を開催

部局

柏図書館では、学内外の利用者を対象としたイベントのひとつとして、6月20日（金）に「第2回わくわくミニコンサート」を開催した。

前回と同様に新領域創成科学研究科の大学院生・教員が中心となって企画等を担当したが、出場者募集には学内外から10組もの応募があり、開演を30分早めての開催となった。

出演者は総勢43名で、柏キャンパスの外国人教員を含む教職員や学生をはじめ、学外からの参加も多岐にわたり、聴衆も160名を越し、メディアホールは満席となって立ち見も出る盛況となった。

プログラムは、フルート、クラリネット、手作りの竹笛の演奏、ピアノ独奏、バイオリン・ビオラ・ピアノの

三重奏、また三線による沖縄の歌メドレーや、ソプラノ・バイオリン・ピアノによるトリオなど、クラシックを中心にバリエーション豊かな演目となり、最後は29名編成の弦楽による迫力ある演奏で締めくくられ、聴衆から盛んな拍手が送られた。ロビーでは、休憩時間や終演後に学内外の出演者や参加者が交流を深める姿が見られた。

アンケートでは、「シビアな研究をしている学生さん達が、交流したり和んだりする機会として意義深い」「学内でこのような催しがあるのはとても嬉しい」「キャンパス内で気軽に参加できるコンサートはとても魅力的」「気分転換になった」「自分も出演したい」などと好評であり、是非続けて欲しいという感想が多数を占めた。



地元演奏家によるトリオ



フォイヤーヴェルク管弦楽団の演奏

大学院法学政治学研究科・法学部



COEシンポジウム「先進国における《政策システム》の創出」が開催される

東京大学21世紀COEプログラム「先進国における《政策システム》の創出：比較政策システム・シナジー・コアの構築」(2003～2007年度)の事業報告を行なう公開シンポジウムが、6月28日(土)の午後、東京ステーションコンファレンス(サピアタワー)で開催された。シンポジウムでは、高橋進拠点リーダーをはじめとするCOEのメンバーが最終成果の報告を行ない、佐々木毅・学習院大学教授(本学前総長)と山口二郎・北海道大学教授がコメンテーターを務めた。

会場では100名以上の聴衆が熱心に耳を傾け、コメン

テーターと報告者との間で白熱した討論も展開され、充実したシンポジウムとなった。



左から、高橋進教授(COE拠点リーダー)、安井宏樹准教授(神戸大学)、平島健司教授(社会科学研究所)、城山英明教授、金井利之教授、谷口将紀准教授



左から山口二郎教授(北海道大学)、佐々木毅教授(学習院大学・本学前総長)



報告に聴き入る聴衆

大学院農学生命科学研究科・農学部



小宮山総長、浅島理事・副学長が北海道演習林を視察

7月1日(火)～2日(水)にかけて、小宮山総長、浅島理事・副学長らが農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林を視察され、同研究科からは生源寺研究科長、下村附属演習林長が同行した。現地では、梶北海道演習林長はじめ職員らの案内により、山部事務所にて演習林の概要説明、樹木園並びに苗畑、91林班にある湧水地に続き麓郷にある森林資料館を視察され、樹木園ではアカエゾマツの苗木を植樹された。



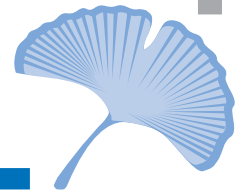
記念植樹（写真左：小宮山総長 写真右：浅島理事・副学長）

演習林は、大学における教育・研究の場（フィールド）として新たな森づくりのための人と技術を育成するとともに、その在り方を社会に提言していくことを目指しており、北海道演習林は7ヶ所ある演習林のうち最も広い約23,000haの面積（山手線内の土地の約4倍）を有し、国内では唯一森林資源の利用と環境保全の持続性との両立を掲げた「林分施業法」という天然林施業を行っている。この広大で豊富な森林は、地球温暖化の抑制に大きな役割を果たしている。



森林資料館にて

## キャンパス ニュース



キャンパス

本部キャリアサポートグループ

平成19年度学部卒業生及び大学院修了者の就職状況

学部卒業生は3,228人、そのうち就職者は1,071人（33.2%）、非就職者は2,157人（66.8%）。非就職者の大半が大学院進学者（1,687人）で、卒業生数に対する大学院進学者数の比率は52.3%と就職者数の比率33.2%を上回っている。それ以前は就職者の比率が大学院進学者等の比率を上回っていたが平成7年度卒業生で逆転し、翌平成8年度にはいったん元にもどったものの、翌平成9年度には再び大学院進学者等比率が就職者比率を上回り、以後今年度まで引き続けている。

大学院修士課程修了者は2,884人、そのうち就職者は1,673人（58.0%）、非就職者は1,211人（42.0%）。非就職者のうち大学院博士課程への進学者等は858人である。

大学院専門職学位課程修了者は399人、そのうち就職者は112人（28.1%）、非就職者は287人（71.9%）。

大学院博士課程修了者は1,575人、そのうち就職者は723人（45.9%）、非就職者は852人（54.1%）。昨年度65.0%で平成12年度以降で最高となった博士課程修了者数に対する非就職者数の比率は、今年度は平成12年度以降では2番目に低い54.1%となった。なお、日本学術振興会の特別研究員等は非就職者数としてカウントしてある。

表1-1 学部卒業生の就職状況

表1-2 修士課程修了者の就職状況

表1-3 専門職学位課程修了者の就職状況

表1-4 博士課程修了者の就職状況

表2-1 学部卒業生の産業別就職者数

表2-2 修士課程修了者の産業別就職者数

表2-3 専門職学位課程修了者の産業別就職者数

表2-4 博士課程修了者の産業別就職者数

表3 就職状況の推移（過去10年）

参考 産業別就職者数の推移（平成16～18年度）

表1-1 平成19年度学部別卒業者の就職状況 平成20年5月1日現在

区分	学部別										合計	比率 (%)	昨年度比率 (%)		
	法学部	経済学部	文学部	教育学部	教養学部	理学部	工学部	農学部		医学部				薬学部	
								農学	獣医学	医学	健康・看護				
学部卒業者数 (A)	536 (129)	351 (61)	329 (133)	113 (60)	164 (53)	270 (32)	957 (89)	272 (57)	30 (10)	95 (12)	20 (8)	91 (26)	3,228 (670)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
就職者数 (B)	244 (51)	280 (50)	192 (79)	81 (41)	69 (28)	16 (1)	96 (9)	66 (15)	20 (8)		5 (2)	2 (1)	1,071 (285)	33.2 (42.5)	34.3 (42.0)
その他 (A-B)	292 (78)	71 (11)	137 (54)	32 (19)	95 (25)	254 (31)	861 (80)	206 (42)	10 (2)	95 (12)	15 (6)	89 (25)	2,157 (385)	66.8 (57.5)	65.7 (58.0)
学部再入学等		6 (2)	2 (1)	1 (1)		3 (1)	1 (1)	2 (1)	4 (1)		2 (1)	5 (1)	26 (9)	0.8 (1.3)	0.8 (0.8)
大学院進学	131 (44)	38 (7)	101 (42)	22 (14)	86 (22)	233 (29)	790 (70)	190 (39)	4		11 (5)	81 (23)	1,687 (295)	52.3 (44.0)	51.5 (44.1)
臨床研修医										72 (10)			72 (10)	2.2 (1.5)	2.9 (3.2)
上記以外	161 (34)	27 (2)	34 (11)	9 (4)	9 (3)	18 (1)	70 (9)	14 (2)	2 (1)	23 (2)	2 (1)	3 (1)	372 (71)	11.5 (10.6)	10.4 (9.9)

( ) は、内数で女子

表1-2 平成19年度大学院 (修士課程) 研究科別修了者の就職状況 平成20年5月1日現在

区分	研究科別										合計	比率 (%)	昨年度比率 (%)					
	人文社会系	教育学	法学政治学	総合法政	経済学	総合文化	理学系	工学系	農学生命科学	医学系				薬学系	数理学	創成科学	新領域	情報理工学系
課程修了者数 (A)	127 (53)	77 (39)	21 (12)	53 (8)	239 (101)	347 (80)	900 (112)	261 (78)	16 (8)	62 (42)	88 (33)	43 (1)	394 (87)	195 (12)	61 (25)	2,884 (691)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
就職者数 (B)	32 (14)	25 (16)	1 (1)	26 (4)	96 (36)	189 (46)	680 (71)	172 (52)	3 (1)	21 (11)	48 (23)	21 (5)	190 (38)	141 (5)	28 (12)	1,673 (330)	58.1 (47.8)	58.1 (48.3)
その他 (A-B)	95 (39)	52 (23)	20 (11)	27 (4)	143 (65)	158 (34)	220 (41)	89 (26)	13 (7)	41 (31)	40 (10)	22 (1)	204 (49)	54 (7)	33 (13)	1,211 (361)	42.0 (52.2)	41.9 (51.7)
学部再入学等						2					2		1			5 (0)	0.2 (0.0)	0.3
他の博士課程進学等	79 (31)	38 (16)	16 (9)	21 (4)	120 (49)	145 (29)	128 (19)	79 (23)	11 (6)	35 (25)	35 (7)	21 (1)	54 (11)	51 (6)	25 (8)	858 (244)	29.8 (35.3)	32.9 (39.8)
上記以外	16 (8)	14 (7)	4 (2)	6 (16)	23 (16)	11 (5)	92 (22)	10 (3)	2 (1)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	149 (38)	3 (1)	8 (5)	348 (117)	12.1 (16.9)	8.7 (12.0)

( ) は、内数で女子。

表1-3 平成19年度大学院(専門職学位課程)研究科別修了者の就職状況 平成20年5月1日現在

区分	研究科別		工学系		医学系		公共政策学	合計	比率(%)	昨年度比率(%)
	法学政治学 法曹養成	原子力	工学系 公共健康	医学系 公共健康						
課程修了者数(A)	276 (90)	16 (1)	9 (4)	98 (25)	399 (120)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)			
就職者数(B)	5 (2)	15 (1)	5 (3)	87 (24)	112 (30)	28.1 (25.0)	24.2 (20.3)			
その他(A-B)	271 (88)	1 (0)	4 (1)	11 (1)	287 (90)	71.9 (75.0)	75.8 (79.7)			
その 他の 内 訳					0 (0)	0.0 (0.0)				
博士課程進学等	1 (1)	1	3	3 (1)	8 (2)	2.0 (1.7)	1.6 (2.5)			
上記以外	270 (87)		1 (1)	8	279 (88)	69.9 (73.3)	74.2 (77.1)			

( ) は、内数で女子。

表1-4 平成19年度大学院(博士課程)研究科別修了者の就職状況 平成20年5月1日現在

区分	研究科別	人文社会系		法学		理学系		工学系		農学生命科学		医学系		理学系	数学科学	新領域創成科学	情報理工学系	学際情報	合計	比率(%)	昨年度比率(%)
		人文	社会系	教育学	政治学	経済学	総合文化	理学系	工学系	農学	獣医学	医学	保健学								
課程修了者数(A)		148 (50)	8 (9)	35 (20)	26 (9)	30 (7)	203 (30)	324 (47)	136 (41)	20 (7)	198 (69)	47 (27)	45 (13)	17 (1)	92 (25)	16 (6)	1,575 (439)	100.0 (100.0)			
就職者数(B)		38 (9)	110 (41)	8 (2)	26 (9)	20 (6)	73 (11)	183 (18)	104 (30)	16 (5)	93 (31)	26 (14)	23 (4)	6 (1)	24 (4)	12 (4)	723 (160)	45.9 (36.4)	35.0 (32.3)		
その他(A-B)		110 (41)	27 (18)	27 (18)	26 (9)	10 (1)	130 (19)	141 (29)	32 (11)	4 (2)	105 (38)	21 (13)	22 (9)	11 (1)	68 (21)	4 (2)	852 (279)	54.1 (63.6)	65.0 (67.7)		
その 他の 内 訳							9 (1)				2 (1)		17 (8)		6 (1)		34 (10)	2.2 (2.3)	0.8 (0.2)		
臨床研修医											4 (1)						4 (1)	0.3 (0.2)			
上記以外		110 (41)	27 (18)	27 (18)	26 (9)	10 (1)	121 (18)	141 (29)	32 (11)	4 (2)	99 (37)	21 (13)	5 (1)	11 (1)	62 (20)	4 (2)	814 (268)	51.7 (61.1)	64.2 (67.5)		

( ) は、内数で女子  
博士課程満期退学を含む

表2-1 平成19年度学部卒業者の産業別就職者数 平成20年5月1日現在

産業別	学部別										合計	比率 (%)	
	法学部	経済学部	教育学部	教養学部	理学部	工学部	農学部		医学部				薬学部
	法学	経済学	教育学	教養学	理学	工学	農学	獣医学	医学	健康・看護	薬学		
農・林・漁業							1 (1)					1 (1)	0.1 (0.4)
鉱業・採石・採集業					1							1 (0)	0.1 (0.0)
建設業	2	2 (1)	3 (2)	1		4						12 (3)	1.1 (1.1)
製造業	26 (5)	42 (7)	27 (17)	7 (1)	1	30 (3)	10 (2)	7 (3)	1			164 (44)	15.3 (15.4)
電気・ガス・熱供給・水道業	5 (1)	5 (1)	2	2			3					17 (2)	1.6 (0.7)
情報通信業	19 (7)	12 (1)	58 (20)	21 (10)	6 (1)	8	8	2 (1)		1 (1)		151 (49)	14.1 (17.2)
運輸業、郵便業	9 (1)	10 (1)	4 (1)	2 (2)		2	1					28 (5)	2.6 (1.8)
卸売・小売業	20 (7)	17 (1)	15 (6)	5 (5)	6 (3)	7	6 (1)	2 (1)		1		80 (24)	7.5 (8.4)
金融業、保険業	67 (14)	103 (18)	32 (12)	15 (5)	16 (6)	5	10 (1)	15 (2)				263 (58)	24.6 (20.4)
不動産業、物品賃貸業	1	4	8 (3)	2 (2)	1	4 (1)						20 (6)	1.9 (2.1)
学術研究、専門技術サービス業	32 (7)	34 (10)	11 (2)	4 (2)		2						83 (21)	7.7 (7.4)
宿泊業、飲食サービス業												0 (0)	0.0 (0.0)
生活関連サービス業、娯楽業	8	1 (1)	2 (1)	4 (4)								15 (6)	1.4 (2.1)
教育、学習支援業	2	2	7 (6)	5 (4)	4		2					22 (10)	2.1 (3.5)
医療、福祉			2 (1)			2 (1)				1 (1)		6 (3)	0.6 (1.1)
複合サービス事業	1	8 (2)	5 (3)	3 (1)	1	3 (1)	11 (4)	7 (3)				4 (1)	0.4 (0.4)
サービス業	60 (9)	33 (8)	12 (4)	7 (3)	11 (5)	2	9 (5)	1			1 (1)	146 (35)	13.6 (12.3)
上記以外のもの			5 (1)	2 (1)		5 (2)				1		13 (4)	1.2 (1.4)
合計	244 (51)	280 (50)	192 (79)	81 (41)	69 (28)	16 (1)	66 (15)	20 (8)	0 (0)	5 (2)	2 (1)	1,071 (285)	100 (100.0)

( ) は、内数で女子

表2-2 平成19年度修士課程修了者の産業別就職者数 平成20年5月1日現在

産業別	研究科別										合計	比率 (%)				
	人文 社会学系	教育学	法学 政治学 総合法政	経済学	総合文化	理学系	工学系 工学系	農学生命 科学	医学系 医科学 保健学	薬学系			数理科学	新領域創 成科学	情報理工 学系	学際情報
農・林・漁業						1								0 (0)	0.0 (0.0)	
鉱業・採石・採集業														2 (0)	0.1 (0.0)	
建設業						57 (10)								64 (14)	3.8 (4.2)	
製造業	5 (2)	2 (2)		3	25 (9)	92 (26)	354 (32)	69 (26)	3	28 (17)	2	98 (13)	61 (3)	5 (2)	747 (132)	44.7 (40.0)
電気・ガス・熱供給・水道業	2 (1)	4 (3)		2 (1)	1	28 (2)	2 (1)					4	2	37 (3)	2.2 (0.9)	
情報通信業	1			2 (1)	3	7 (1)	22 (2)	4 (1)		1		20 (6)	49	8 (2)	192 (37)	11.5 (11.2)
運輸業、郵便業	1			1	2 (1)	5	22 (3)	10 (3)				3	2	43 (4)	2.6 (1.2)	
卸売・小売業	1	1		1	2 (1)	20 (1)	54 (6)	18 (3)		7	10	14 (1)	16 (2)	2 (1)	172 (20)	10.3 (6.1)
金融業、保険業	1	1 (1)	1 (1)	14 (2)	14 (2)	20 (1)	11 (4)	1 (1)				1 (1)	1	14 (6)	0.8 (1.8)	
不動産業、物品賃貸業	6 (2)	6 (2)		1	13 (6)	22 (7)	43 (5)	4	4 (3)	4 (2)		7 (3)	6	117 (30)	7.0 (9.1)	
学術研究、専門技術サービス業								1						1 (0)	0.1 (0.0)	
宿泊業、飲食サービス業														2	2 (0)	0.1 (0.0)
生活関連サービス業、娯楽業	4 (1)	7 (6)		1	7 (3)	2 (1)	3	4 (1)	3 (2)			3 (1)	2	36 (15)	2.2 (4.5)	
教育、学習支援業					1 (1)	1 (1)	1		6 (4)	1 (1)		2 (1)		12 (8)	0.7 (2.4)	
医療、福祉	1				1 (1)		9 (1)	1				8		4 (3)	2.4 (5)	
複合サービス事業	1				6 (4)	2 (2)	2 (1)	32 (8)	2			13 (5)	1	7 (4)	67 (24)	4.0 (7.3)
サービス業	4 (3)	2 (1)		3 (1)	2	8	14	7	1 (1)	6 (3)		7 (2)	1	56 (11)	3.3 (3.3)	
公務	6 (5)	2 (1)		1			24 (3)		3	2		7 (3)		43 (14)	2.6 (4.2)	
上記以外のもの									3 (1)	21 (11)	21 (0)	190 (38)	141 (5)	28 (12)	1,673 (330)	100 (100)

( ) は、内数で女子。

表2-3 平成19年度専門職学位課程修了者の産業別就職者数 平成20年5月1日現在

産業別	法学政治学		工学系		医学系		合計	比率 (%)
	法曹養成	原子力	公共健康	公共政策学				
農・林・漁業					0	(0)	0	0.0 (0.0)
鉱業・採石・採集業					0	(0)	0	0.0 (0.0)
建設業				1	1	(0)	1	0.9 (0.0)
製造業				7	7	(1)	8	7.1 (3.3)
電気・ガス・熱供給・水道業				7	7	(0)	7	6.3 (0.0)
情報通信業				5	5	(1)	5	4.5 (3.3)
運輸業、郵便業				1	1	(0)	1	0.9 (0.0)
卸売・小売業				3	3	(0)	3	2.7 (0.0)
金融業、保険業				17	17	(7)	17	15.2 (23.3)
不動産業、物品賃貸業				2	2	(1)	2	1.8 (3.3)
学術研究、専門技術サービス業			2	12	12	(3)	17	15.2 (16.7)
宿泊業、飲食サービス業					0	(0)	0	0.0 (0.0)
生活関連サービス業、娯楽業					0	(0)	0	0.0 (0.0)
教育、学習支援業	5	(2)			5	(2)	5	4.5 (6.7)
医療、福祉				3	3	(1)	3	2.7 (3.3)
複合サービス事業					0	(0)	0	0.0 (0.0)
サービス業					0	(0)	0	0.0 (0.0)
公務				4	34	(8)	38	33.9 (30.0)
上記以外のもの				5	5	(3)	5	4.5 (10.0)
合計	5	(2)	15	(1)	5	(3)	112	100 (100)

( ) は、内数で女子。

表2-4 平成19年度博士課程修了者の産業別就職者数 平成20年5月1日現在

産業別	人文社会科学系		法学		理学系		工学系		農学生命科学		医学系		理学系		数理学系		情報理工学系		学際情報	合計	比率 (%)								
	社会学	政治学	教育学	政治学	経済学	総合文化	理学系	工学系	農学	獣医学	医学	保健学	理学系	工学系	数理学系	情報理工学系													
農・林・漁業																				0	0	0.0 (0.0)							
鉱業・採石・採集業																				0	0	0.0 (0.0)							
建設業								6	(1)	2										9	(1)	1.2 (0.6)							
製造業						7	(1)	31	(4)	38	(3)	12	(3)	4	(1)					127	(15)	17.6 (9.4)							
電気・ガス・熱供給・水道業								4												4	(0)	0.6 (0.0)							
情報通信業								9		1										23	(0)	3.2 (0.0)							
運輸業、郵便業								2												2	(0)	0.3 (0.0)							
卸売・小売業										1	(1)									1	(1)	0.1 (0.6)							
金融業、保険業								6	(2)	3										16	(2)	2.2 (1.3)							
不動産業、物品賃貸業								1	(1)	1										1	(1)	0.1 (0.6)							
学術研究、専門技術サービス業								2	(1)	4	(2)	6	(1)	35	(3)	80	(22)	7	(3)	14	(3)	11	(7)	3	(2)	175	(46)	24.2 (28.7)	
宿泊業、飲食サービス業																				0	(0)	0.0 (0.0)							
生活関連サービス業、娯楽業																				0	(0)	0.0 (0.0)							
教育、学習支援業								18	(5)	37	(12)	14	(3)	79	(7)	4	(3)	3		1	(1)	13	(1)	11	(4)	240	(52)	33.2 (32.5)	
医療、福祉								1					2	(1)						54	(18)	4	(2)			62	(22)	8.6 (13.8)	
複合サービス事業										5	(4)													3	(0)	0.4 (0.0)			
サービス業										1	(1)													12	(5)	1.7 (3.1)			
公務										1	(1)													22	(5)	3.0 (3.1)			
上記以外のもの										1			8	(2)										26	(10)	3.6 (6.3)			
合計	38	(9)	8	(2)	0	(0)	20	(6)	73	(11)	183	(18)	104	(30)	16	(5)	93	(31)	26	(14)	23	(4)	6	(0)	24	(4)	723	(160)	100 (100)

( ) は、内数で女子。博士課程満期退学を含む

表3 就職状況の推移（過去10年）

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
学部卒業者数	3,616	3,368	3,428	3,407	3,380	3,416	3,250	3,298	3,264	3,228
就職者数	1,410	1,197	1,176	1,111	1,103	953	948	1,069	1,120	1,071
卒業者数に対する就職者数の比率（％）	39.0	35.5	34.3	32.6	32.6	27.9	29.2	32.4	34.3	33.2
非就職者数	2,206	2,171	2,252	2,296	2,277	2,463	2,302	2,229	2,144	2,157
卒業者数に対する非就職者数の比率（％）	61.0	64.5	65.7	67.4	67.4	72.1	70.8	67.6	65.7	66.8
修士課程修了者数	2,247	2,197	2,470	2,482	2,673	2,711	2,719	2,732	2,865	2,884
就職者数	1,031	1,040	1,203	1,213	1,368	1,334	1,380	1,503	1,665	1,673
修了者数に対する就職者数の比率（％）	45.9	47.3	48.7	48.9	51.2	49.2	50.8	55.0	58.1	58.0
非就職者数	1,216	1,157	1,267	1,269	1,305	1,377	1,339	1,229	1,200	1,211
修了者数に対する非就職者数の比率（％）	54.1	52.7	51.3	51.1	48.8	50.8	49.2	45.0	41.9	42.0
専門職学位課程修了者数								271	380	399
就職者数								82	92	112
修了者数に対する就職者数の比率（％）								30.3	24.2	28.1
非就職者数								189	288	287
修了者数に対する非就職者数の比率（％）								69.7	75.8	71.9
博士課程修了者数	964	894	1,223	1,388	1,371	1,532	1,458	1,547	1,619	1,575
就職者数	501	456	599	635	591	586	537	631	567	723
修了者数に対する就職者数の比率（％）	52.0	51.0	49.0	45.7	43.1	38.3	36.8	40.8	35.0	45.9
非就職者数	463	438	624	753	780	946	921	916	1,052	852
修了者数に対する非就職者数の比率（％）	48.0	49.0	51.0	54.3	56.9	61.7	63.2	59.2	65.0	54.1



参考 学部卒業者及び大学院修了者の産業別就職者数の推移（平成16年度～18年度）

		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
農・林・漁業	学部						
	修士	1		1		3	(1)
	専門職学位						
	博士						
鉱業	学部			2	(1)	5	
	修士	2	(1)	6		7	(1)
	専門職学位						
	博士	1		1		1	
建設業	学部	15	(2)	13	(1)	13	(3)
	修士	28	(5)	43	(5)	59	(11)
	専門職学位						
	博士	3		8	(2)	5	(1)
製造業	学部	144	(21)	139	(34)	153	(33)
	修士	593	(132)	655	(121)	710	(112)
	専門職学位			6	(1)	6	(1)
	博士	83	(14)	126	(20)	151	(27)
電気・ガス・熱供給・水道業	学部	14	(2)	21	(5)	21	(4)
	修士	29	(2)	63	(6)	39	(6)
	専門職学位			10		7	
	博士	1		7	(1)	1	
情報通信業	学部	117	(28)	147	(50)	159	(46)
	修士	162	(25)	178	(45)	210	(29)
	専門職学位			11	(2)	7	(4)
	博士	16	(2)	22	(7)	24	
運輸業	学部	32	(6)	33	(9)	38	(4)
	修士	33	(1)	31	(2)	46	(8)
	専門職学位						
	博士	2		1			
卸売・小売業	学部	41	(10)	54	(15)	66	(21)
	修士	34	(2)	38	(7)	39	(4)
	専門職学位					1	
	博士	1	(1)	3		6	(3)
金融・保険業	学部	190	(35)	233	(52)	280	(54)
	修士	86	(9)	136	(14)	159	(26)
	専門職学位			14	(5)	16	(7)
	博士	1		6		13	(2)
不動産業	学部	21	(3)	15	(2)	15	(2)
	修士	6	(5)	6	(2)	12	(2)
	専門職学位					2	
	博士	2					
飲食店・宿泊業	学部	2	(1)	3	(1)	2	(1)
	修士					2	(1)
	専門職学位					1	
	博士						
医療・福祉	学部	8	(4)	4	(2)	2	(2)
	修士	6	(3)	8	(5)	5	(4)
	専門職学位						
	博士	84	(19)	95	(32)	72	(28)
教育・学習支援業	学部	23	(5)	15	(4)	21	(8)
	修士	30	(9)	39	(16)	46	(14)
	専門職学位			3		5	
	博士	175	(35)	168	(55)	163	(45)
複合サービス事業	学部			2	(1)	2	
	修士	17	(2)	28	(4)	33	(4)
	専門職学位					2	
	博士	1		3		7	(1)
サービス業	学部	130	(31)	155	(25)	182	(57)
	修士	122	(32)	140	(42)	172	(59)
	専門職学位			19	(4)	16	(5)
	博士	112	(33)	122	(37)	90	(24)
公務	学部	171	(41)	162	(30)	137	(34)
	修士	123	(27)	85	(21)	104	(25)
	専門職学位			19	(5)	26	(7)
	博士	21	(2)	12	(4)	24	(3)
上記以外のもの	学部	40	(7)	71	(21)	24	(6)
	修士	108	(24)	46	(13)	19	(4)
	専門職学位					3	
	博士	34	(5)	57	(10)	10	(2)
合 計	学部	948	(196)	1,069	(253)	1,120	(275)
	修士	1,380	(279)	1,503	(303)	1,665	(311)
	専門職学位	0	(0)	82	(17)	92	(24)
	博士	537	(111)	631	(168)	567	(136)

( ) は、内数で女子



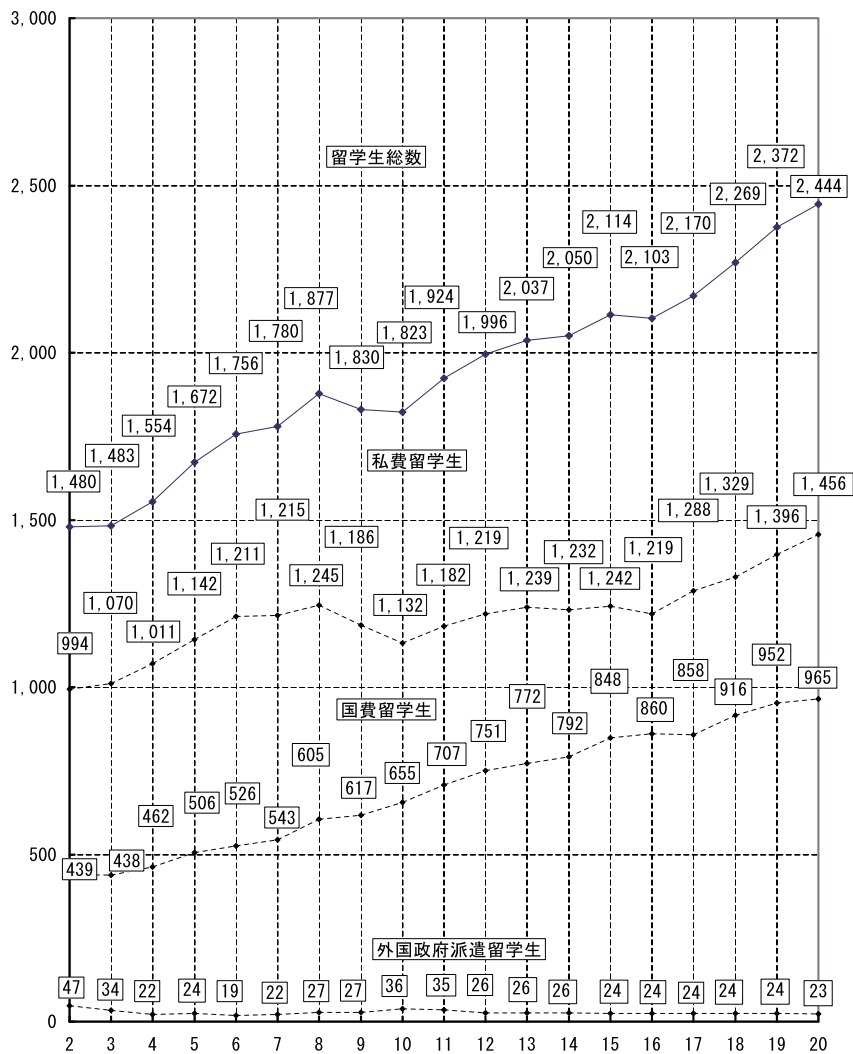
本部留学生支援グループ

平成 20 年度外国人学生数－国費外国人留学生数 965 人、私費外国人留学生数 1,456 人、外国政府派遣留学生数 23 人、その他の外国人学生数（在日外国人学生数）229 人－

本学では、毎年 5 月と 11 月の年 2 回、同月 1 日現在の外国人学生数を調査している。これをもとに各年度 5 月 1 日現在の外国人留学生数の推移を示した。また、本年 5 月 1 日現在の外国人学生数は次頁以降のとおりである。

東京大学外国人留学生受入数の推移  
(各年度 5 月 1 日現在)

教育・学生支援系  
留学生支援グループ調べ



全学生数に対する外国人留学生数の比率

事 項	A 全学生数 (人)	B 日本人学生数 (人)	C 外国人留学生 (人)	C/A 比 率	平成 19 年度 比 率
学部レベル	14,238	13,814	289	2.03%	1.81%
大学院レベル	14,306	12,069	2,155	15.06%	14.84%
計	28,544	25,883	2,444	8.56%	8.26%

※全学生数欄にはその他の外国人学生（在日外国人学生）を含む。  
 ※学部レベル学生数（全学生数）には、学部特別聴講学生（25 名）を含む。  
 ※研究所に所属する外国人研究生（13 名）は、大学院レベル学生数（全学生数）に含む。  
 ※比率欄の数は四捨五入。

平成 20 年度 外国人学生数

区 分	学 部				大 学 院								研 究 所		合 計			
	学 生		研 究 生 等		修 士 課 程		専 門 職 位 課 程		博 士 課 程		外 国 人 研 究 生 等		大 学 院 研 究 生				研 究 生	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
国 費 (a)	86	40	0	0	138	93	2	4	286	149	102	63	0	0	2	0	616	349
	126		0		231		6		435		165		0		2		965	
外国政府派遣 シンガポール	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	1		0		1		0		0		0		0		0		2	
外国政府派遣 タイ	5	4	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7	5
	9		0		2		0		1		0		0		0		12	
外国政府派遣 マレーシア	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	0		0		0		0		1		0		0		0		1	
外国政府派遣 韓国	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0
	8		0		0		0		0		0		0		0		8	
計 (b)	14	4	0	0	3	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	18	5
	18		0		3		0		2		0		0		0		23	
私 費 (c)	38	48	20	22	247	219	7	7	302	269	110	91	7	4	4	5	735	665
	86		42		466		14		571		201		11		9		1,400	
小 計 (d) ((a) + (b) + (c)) (在留資格「留学」の者)	138	92	20	22	388	312	9	11	589	419	212	154	7	4	6	5	1,369	1,019
	230		42		700		20		1,008		366		11		11		2,388	
私 費 (e) (在留資格「留学」以外の者)	11	6	0	0	1	5	1	0	8	7	7	9	0	0	1	0	29	27
	17		0		6		1		15		16		0		1		56	
外国人留学生合計 (f) ((d) + (e))	149	98	20	22	389	317	10	11	597	426	219	163	7	4	7	5	1,398	1,046
	247		42		706		21		1,023		382		11		12		2,444	
その他の外国人学生 (g)	117	17	0	1	28	15	4	1	28	13	3	1	0	0	1	0	181	48
	134		1		43		5		41		4		0		1		229	
外国人学生 総計 (f + g)	266	115	20	23	417	332	14	12	625	439	222	164	7	4	8	5	1,579	1,094
	381		43		749		26		1,064		386		11		13		2,673	

学部及び研究科等別外国人留学生数

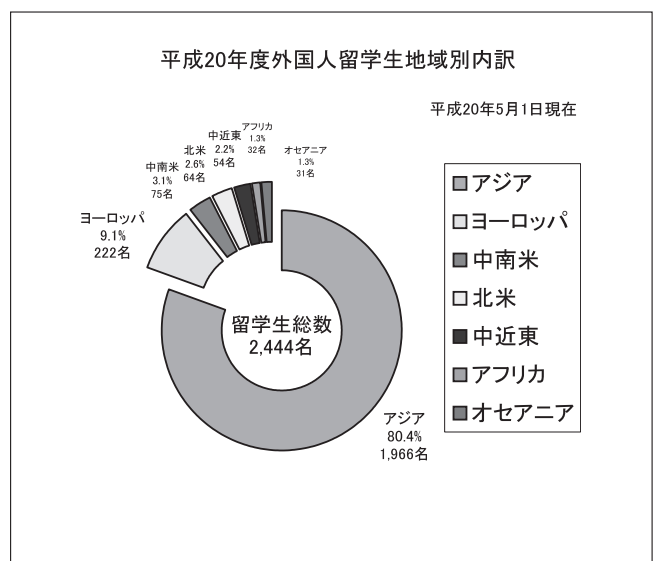
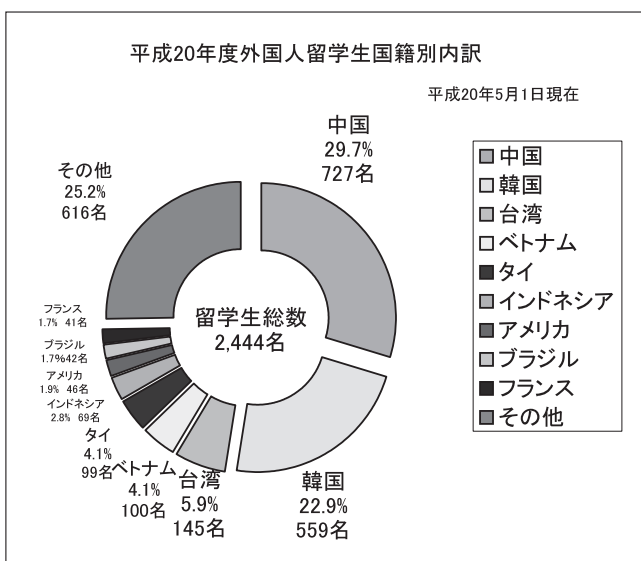
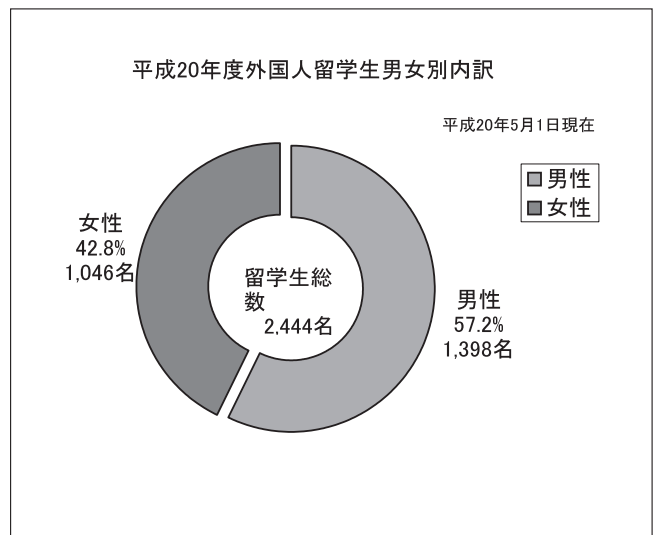
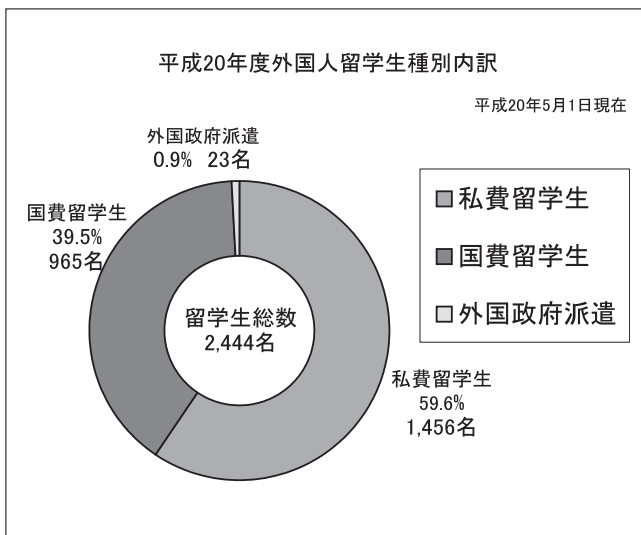
区分	学 部				大 学 院								研 究 所		小 計		合 計		
	学 生		研 究 生 等		修 士 課 程		専 門 職 位 課 程		博 士 課 程		外 国 人 研 究 生 等		大 学 院 研 究 生					研 究 生	
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費		国費	私費
学 部	法学部	7	6														7	6	13
	医学部																0	0	0
	工学部	29	28		13												29	41	70
	文学部	5	2														5	2	7
	理学部	7	4														7	4	11
	農学部	1	3		3												1	6	7
	経済学部	6	8														6	8	14
	教養学部	70	64		25												70	89	159
	教育学部	1	1														1	1	2
	薬学部		5		1												0	6	6
小計	126	121	0	42												126	163	289	
大 学 院	人文社会系研究科					11	19			15	53	23	27		3		49	102	151
	教育学研究科					3	15			3	25	6	6		1		12	47	59
	法学政治学研究科					5	25	1	3	14	21	11	15				31	64	95
	経済学研究科					8	11			1	3	2	3				11	17	28
	総合文化研究科					34	41			34	95	21	18		3		89	157	246
	理学系研究科					8	4			13	13	4	6				25	23	48
	工学系研究科					75	187			179	153	45	58		3		299	401	700
	農学生命科学研究科					16	30			62	58	14	18				92	106	198
	医学系研究科					3	27	2	1	31	78	3	10				39	116	155
	薬学系研究科					3	5			7	3	1	1				11	9	20
	数理学研究科					6	1			6	1	1					13	2	15
	新領域創成科学研究科					16	55			37	44	5	18				58	117	175
	情報理工学系研究科					30	28			26	23	15	12				71	63	134
	学際情報学府					13	27			7	18	14	24		1		34	70	104
	公共政策学教育部							3	11								3	12	15
小計					231	475	6	15	435	588	165	217	0	11	0	837	1,306	2,143	
研 究 所	医科学研究所															3	0	3	3
	生産技術研究所															5	0	5	5
	海洋研究所													2		2	0	2	2
	先端科学技術研究センター														2	0	2	2	
	小計														2	10	2	10	12
合計	126	121	0	42	231	475	6	15	435	588	165	217	0	11	2	10	965	1,479	2,444

(注) 外国政府派遣留学生は、私費の欄に含む。

国又は地域別外国人留学生数

国名又は地域名	国 費						私 費						合 計						総計				
	学部		大学院等				学部		大学院等				学部		大学院等								
	学生	研究生等	修士	専門職	博士	研究生等	小計	学生	研究生等	修士	専門職	博士	研究生等	小計	学生	研究生等	修士	専門職		博士	研究生等		
<b>アジア</b>																							
パキスタン			2		8	1	11					5		3		8	0	0	7	0	11	1	19
インド	1				9	1	11					1		3	1	5	1	0	1	0	12	2	16
ネパール	1		1		4		6					6		5		11	1	0	7	0	9	0	17
バングラデシュ	1		6		13	2	22					9		6	1	16	1	0	15	0	19	3	38
スリランカ	1		1		8	2	12					8		10		18	1	0	9	0	18	2	30
ブータン							0					1				1	0	0	1	0	0	0	1
オマーン					1		1					1				0	0	0	0	0	1	0	1
ミャンマー			4		4	1	9					3		1	1	5	0	0	7	0	5	2	14
タイ	11		21		27	9	68	10				7		7	7	31	21	0	28	0	34	16	99
マレーシア	6		3		8	5	22					1		4	2	12	6	1	7	0	13	7	34
シンガポール	2				2	1	5	1	2			3		2	1	9	3	2	3	0	4	2	14
インドネシア	7		10	1	14	3	35					1		18		34	7	1	28	1	26	6	69
フィリピン			2	1	16	1	20					1		3		8	0	1	5	1	20	1	28
韓国	20		46	1	91	30	188	25	8	103	4	189	42	371	45	8	149	5	280	72	559		
中国	5		24	1	94	33	157	78	10	211	6	195	70	570	83	10	235	7	289	103	727		
モンゴル	10		5		3	1	19	3		7	2	3	1	16	13	0	12	2	6	2	35		
ベトナム	27		20		14	1	62	1	3	12		18	4	38	28	3	32	0	32	5	100		
カンボジア	2		3		2		7					2		1	3	2	0	5	0	2	1	10	
ラオス	1						1					3		3		6	1	0	3	0	3	0	7
マカオ	3						3								0	3	0	0	0	0	0	3	
台湾							0		1	39	3	59	43	145	0	1	39	3	59	43	145		
小計	98	0	148	4	318	91	659	118	27	445	15	525	177	1,307	216	27	593	19	843	268	1,966		
<b>中近東</b>																							
イラン	1				7	2	10					4	3	7	1	0	0	0	11	5	17		
トルコ			4		8	3	15			1		5		6	0	0	5	0	13	3	21		
シリア			1		1	2								0	0	0	1	0	0	1	2		
レバノン			1		2	3								0	0	0	1	0	2	0	3		
イスラエル					1	3	4					1		1	0	0	0	0	2	3	5		
ヨルダン			1		1	2								0	0	0	1	0	0	1	2		
イラク					1	1								0	0	0	0	0	1	0	1		
サウジアラビア						0						1		1	0	0	0	0	1	0	1		
アフガニスタン					1	1								0	0	0	0	0	1	0	1		
イエメン						1	1							0	0	0	0	0	0	1	1		
小計	1	0	7	0	20	11	39	0	0	1	0	11	3	15	1	0	8	0	31	14	54		
<b>アフリカ</b>																							
エジプト					4	1	5					3	1	4	0	0	0	0	7	2	9		
スーダン					2	2						1		1	0	0	0	0	3	0	3		
チュニジア			2		2	4						2		2	0	0	2	0	4	0	6		
アルジェリア					1	1								0	0	0	0	0	1	1	1		
ケニア						0				1				1	0	0	1	0	0	0	1		
タンザニア	2		1		3	3								0	2	0	1	0	0	0	3		
ナイジェリア					1	1								0	0	0	0	0	1	0	1		
ガーナ						1	1						1	1	0	0	0	0	0	2	2		
コンゴ民主共和国						0						1		1	0	0	0	0	1	0	1		
モロッコ						0				1		1		2	0	0	1	0	0	1	2		
エチオピア			1		1	2								0	0	0	1	0	1	0	2		
モザンビーク			1			1								0	0	0	1	0	0	0	1		
小計	2	0	5	0	10	3	20	0	0	2	0	7	3	12	2	0	7	0	17	6	32		
<b>オセアニア</b>																							
オーストラリア	4		7		4	2	17		2	1				3	4	2	8	0	4	2	20		
ニュージーランド			3	1	1	3	8					2	1	3	0	0	3	1	3	4	11		
小計	4	0	10	1	5	5	25	0	2	1	0	2	1	6	4	2	11	1	7	6	31		
<b>北米</b>																							
カナダ	1		1		1	5	8		1	4		4	1	10	1	1	5	0	5	6	18		
アメリカ合衆国	3		8		7	4	22	2	3	5		4	10	24	5	3	13	0	11	14	46		
小計	4	0	9	0	8	9	30	2	4	9	0	8	11	34	6	4	18	0	16	20	64		
<b>中南米</b>																							
メキシコ			2			1	3					1		1	0	0	3	0	0	1	4		
コスタリカ					1	1	2							0	0	0	0	0	1	1	2		
パナマ			1			1	2							0	0	0	1	0	0	1	2		
ハイチ			1			1								0	0	0	1	0	0	0	1		
ブラジル	6		10		13	10	39					3		3	6	0	10	0	16	10	42		
パラグアイ	1					1	1	1						1	2	0	0	0	0	0	2		
アルゼンチン						1	1							0	0	0	0	0	0	1	1		
チリ			1		1	1	3		1					1	0	1	1	0	1	1	4		
ペルー					1	2	3			1		1		2	0	0	1	0	2	2	5		
エクアドル						1	1							0	0	0	0	0	0	1	1		
コロンビア			1			2				5				5	0	0	6	0	1	0	7		
ベネズエラ			3		1	4								0	0	0	3	0	1	0	4		
小計	7	0	19	0	18	18	62	1	1	7	0	4	0	13	8	1	26	0	22	18	75		
<b>ヨーロッパ</b>																							
フィンランド	2						2						2	2	0	0	0	0	0	2	4		
スウェーデン					1	1	2		2				5	7	0	2	0	0	1	6	9		
ノルウェー							0					1		1	0	0	0	0	1	0	1		
デンマーク						1				1			1	2	0	0	1	0	1	1	3		
イギリス			2		3	1	6			2		1		3	0	0	4	0	4	1	9		
ベルギー					1	1								0	0	0	0	0	1	0	1		
オランダ					4	4						2	1	3	0	0	0	0	6	1	7		
ドイツ			1		4	1	6			2	1		3	6	12	0	2	2	0	7	18		
フランス			4		11	3	18		2	1		7	13	23	0	2	5	0	18	16	41		

スペイン			3			1	4					2	2	0	0	3	0	2	1	6	
ポルトガル			2		2	1	5						0	0	0	2	0	2	1	5	
イタリア			1		3	6	10		1			1	3	5	0	1	1	0	4	9	15
ギリシャ			2				2						0	0	0	2	0	0	0	2	
オーストリア					3	2	5					1	1	2	0	0	0	4	3	7	
スイス					1		1		1			3	9	13	0	1	0	0	4	9	14
ポーランド			1		3	1	5			1			1	2	0	0	2	0	3	2	7
ハンガリー			3		3	2	8					1		1	0	0	3	0	4	2	9
ルーマニア			2		4		6					2		2	0	0	2	0	6	0	8
ブルガリア	3		2	1		5	11		1			1		2	3	0	3	1	1	5	13
ロシア	3		5		3	3	14					4		4	3	0	5	0	7	3	18
アルバニア							0		1					1	0	0	1	0	0	0	1
ウクライナ			2				2							0	0	0	2	0	0	0	2
ウズベキスタン							0					1	1	2	0	0	0	0	1	1	2
カザフスタン	1						1							0	1	0	0	0	0	0	1
チェコ					3	3	6							0	0	0	0	0	3	3	6
スロバキア			1		1		2							0	0	0	1	0	1	0	2
クロアチア							0					1		1	0	0	0	0	1	0	1
キルギス			1				1							0	0	0	1	0	0	0	1
ベラルーシ	1				1		2							0	1	0	0	0	1	0	2
スロベニア					1		1							0	0	0	0	0	1	0	1
アゼルバイジャン							0		1					1	0	0	1	0	0	0	1
タジキスタン					1		1								0	0	0	0	1	0	1
モルドバ					1		1							0	0	0	0	0	1	0	1
セルビア			1		1		2		1					1	0	0	2	0	1	0	3
小計	10	0	33	1	56	30	130	0	8	10	0	31	43	92	10	8	43	1	87	73	222
合計	126	0	231	6	435	167	965	121	42	475	15	588	238	1,479	247	42	706	21	1,023	405	2,444



## 第10回科学技術交流フォーラム:「発達知」~先端科学技術と人間発達研究~ 200名を超える参加者で盛況に終わる



写真上:乾杯の挨拶をする山本義春氏(大学院教育学研究科教授)(左)、基調講演をする小泉英明氏(先端科学技術研究センター客員教授)(右)、写真中央:浅間一氏(人工物工学研究センター教授)(左)、加藤進昌氏(昭和大学医学部精神医学教室教授)(右)、写真下:参加者は講演を熱心に聞き入っていた。

6月17日(火)10時より山上会館2F大会議室にて、第10回科学技術交流フォーラム(テーマ:「発達知」~先端科学技術と人間発達研究)が開催されました。藤田産学連携本部長と小宮山総長の挨拶に続き、イントロダクションとして「科学技術と人間発達研究」のテーマで、山本義春氏(大学院教育学研究科教授)より講演がありました。

今回のフォーラムは3部から構成され、各部の最初に基調講演があり、関連講演が続くというスタイルでした。また、講演の後には質疑応答の時間を設け、講演者と参加者との交流を重視しました。参加者からは、多くの質問や感想が投げかけられ、活発な意見交換が行われました。学内外合わせて200名規模の参加申し込みがあり、関心の高いテーマであることが窺われました。講演会終了後、18時より地階食堂にて開催された交流会でも多数の参加があり、活発な交流が続きました。講演内容は以下の通りです。

### 第1部「脳科学と発達科学」

「脳科学と発達科学の将来」小泉英明氏(㈱日立製作所 役員待遇フェロー、先端科学技術研究センター 客員教授)「脳の初期発達」多賀蔵太郎氏(大学院教育学研究科 准教授)「人工物と赤ちゃん」開一夫氏(大学院総合文化研究科 准教授)「発達障害の脳機能画像」笠井清登氏(医学部附属病院精神神経科診療部門 講師(診療部門長))

### 第2部「発達障害の分子精神医学」

「発達障害は増えているか?—発達精神医学の時代—」加藤進昌氏(昭和大学 医学部 精神医学教室 教授)「発達障害の臨床最前線」金生由紀子氏(医学部附属病院こころの発達診療部 特任准教授)「発達障害の遺伝子研究最前線」難波栄二氏(鳥取大学 生命機能研究支援センター 教授)「発達障害の動物モデル作製と創薬に向けて」内匠透(大阪バイオサイエンス研究所 神経科学部門 研究室長)

### 第3部「人間発達への工学の挑戦」

「移動知から発達知へ」浅間一氏(人工物工学研究センター 教授)「人間発達の構成論的理解」國吉康夫氏(大学院情報理工学系研究科 教授)「発達ウォッチセンサの開発に向けて」伊藤寿浩氏(産業技術総合研究所 先進製造プロセス研究部門ネットワークMEMS研究グループ グループ長)「ホームヘルスケアシステムの現状と課題」和辻徹氏(シャープ(株)研究開発本部 主任研究員)

## シンポジウムなどの情報を企業へ通知します!

DUOCR イベント 検索

産学連携本部が主催する「東京大学産学連携協議会(産業界と東京大学をつなぐ産学連携のプラットフォーム)」では、月に2回「UCRホットライン」として大学の最新イベント情報を登録企業560社に通知しております。通知をご希望の場合は、上記サイトのイベント情報掲載のページ(学内からのみ)に入力をお願いします。

## Stanford大学 Dasher教授の講演会

5月19日(月)10時30分より、産学連携本部2F会議室にて、Stanford大学 Richard B.Dasher教授の講演会「National Innovation Systems:University-Industry Relations in China,Japan,and the United States」が開催されました。

講演内容は、イノベーションシステムの一環として、政府系の公的研究資金がどのように産学官に流れているか、知的財産権についての考え方、大学発ベンチャーなどについて、米国、中国、日本の大学を比較して、具体的に説明されました。Stanford大学では、教授が研究費とPh.D学生等のスタッフの給料等を確保するために、外部から相当額の研究費を獲得して必要がある等、日米の大学の比較をされました。Dasher教授は「学問は日々進化していくので、大学はリーダーシップをもつべき。社会への貢献の側面では産学が協力して連携することは絶対不可欠になるだろう」と述べられました。



流暢な日本語で講演されたDasher教授

連絡先:産学連携本部(本部産学連携グループ) 電話:内線22857 (外線03-5841-2857)WEBページ:<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

DUOCR 検索





## ケータイからみた東大 ～東大ナビ通信～ No.8



### イベント取材記事スタート！

今年度より始まりました、東大ナビによる学内教育イベントの紹介。今月は携帯・PCサイト (<http://utnav.jp>) 上で、大学院情報学環・学際情報学府の学生さんによるメディアアート展「iii exhibition9」を取材しました！

この取材は、イベント掲載依頼を頂いた主催者のご好意により実現しました。そしてイベント当日に東大ナビのスタッフがお伺いし、イベントの様子を取材しました。

「iii exhibition9」は学生さん制作のメディアアートの展示会です。作品はどれも鑑賞として面白いだけでなく、実際触って楽しめるものばかり！また、作品に使われている技術自体を知るのも興味深いものでした。

詳細はサイト上で紹介しております。

みなさんも「東大ナビ」でご紹介したイベントに、一度足を運ばれてはいかがでしょうか？



東大ナビでは、教育イベントの取材をお受け頂ける方を募集しております。

ご協力頂ける方々、是非下記までお問い合わせ下さい！

- 教育企画室TREEオフィス内線：27823（重田）
- メール：info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp
- オフィス：本郷キャンパス 第二本部棟401号室



### 携帯サイトからイベント投稿！

東大ナビでは、教育イベント情報を携帯・PCサイトからも承っています！

トップページよりリンクされた「東大ナビへのイベント掲載、お問い合わせはこちらへ！」をクリックし、フォーム（右）に必要な事項を入力して送信下さい。追ってスタッフより、イベントの詳細について問い合わせ致します。是非ご利用下さい！

東大ナビへのイベント掲載、お問い合わせはこちらへ！

◆メールアドレス

◇お名前

◆お問い合わせ内容

送信



### 東大ナビとは？

学内外に向け携帯電話を通じて教育イベント情報をお届けするサービスです。携帯サイトで学術俯瞰講義や公開講座、学内で開催される教育イベント情報を宣伝します。

加えて、QRコードや空メール送信によりメールアドレスを登録した皆様の携帯電話に、最新の教育イベント情報を、メールマガジンで定期的にお届けします。学内教育イベントの情報収集・広報活動の媒体としてご利用頂けます。

是非、東大ナビをご活用ください！



## 東大ナビ はじまる

ケータイでお得なイベント情報をGET!

詳しくは utnav.jp にアクセス。

または mail@utnav.jp に空メール！

東京大学 教育企画室



### イベント情報を受けたい方

mail@utnav.jp に空メール送信！

- この記事のQRコードから
  - mail@utnav.jp宛てにメール送信
  - 携帯サイトutnav.jpにアクセスしてメルマガ登録ページへ
- ※携帯電話・PCどちらからも登録可能



返信メールから登録画面に入力！

- ご所属
- 性別・年齢など



登録完了！

- 登録確認メールが届きます
- 隔週でメルマガ・お得なクーポンGET!



### イベントを宣伝したい方

携帯・PCサイトで申し込みます

- <http://utnav.jp> にアクセス
  - イベント掲載フォームから送信！
  - 追ってスタッフよりご連絡致します
- 教育企画室TREEオフィスまで！
- 内線：27823（重田）
  - メール：info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp
  - オフィス：本郷キャンパス 第二本部棟401号室



## 最強の科学技術インタープリター

山科 直子

科学技術インタープリター養成プログラム特任准教授

「なんで私が東大に!？」・・・電車の吊り広告で見るともなく見ていたアレが、まさか自分の身に起こるとは思ってもみなかった。

実は私の亡父もコテコテ(?)の大学人であり、私は親子ゲンカのために「人間、センセイと呼ばれるようになったらおしまいだよ」などと乱暴な持論を展開したのだが、父が生きていたらなんと言われることか・・・。

いい年して親の話をするのも気が引けるが、父は大学のセンセイという立場を最大限に活用した人だった。地方の国立大学のセンセイなんていったら、その地方では超偉い人としてちやほやされてしまうので、なんでもできるような勘違いもあったのだろうが、おかげで、雪国の大気汚染の根源であったスパイクタイヤを規制するための法律をつくってしまうというのをやってのけた。

もちろんこれは彼一人の仕事ではない。研究室に粉塵を分析できる最新の機材があったこと、彼自身の目立ちたがりな性質がそもそもの発端だったが、科学的に環境汚染を計測し、その原因を突き止めて広く市民に公表したことで、医師や弁護士などの専門家や空気の悪さで健康被害を被っていた人々が集まり、市民運動を起こすこととなった。おまけにメディアや議員やタイヤメーカーまで動かした。センセイの力は絶大だ。

しかしながら父は当時、学内では目立ち過ぎだと叩かれ、祖父からは本業はどうしたのかと諭され、家庭では市民運動の雑務を押し付けられた妻子の不満が渦巻いていた。結果的には市民の勝利で終わったが、内情は結構大変だったのである。

褒めてるんだかけなしてるんだかわからない話になってしまったが、つまりはセンセイ(専門家)という人たちは、特別なコミュニケーション能力がなくても、マインドがあれば最強の科学技術インタープリターになりうるということだ。今ならそういった活動が批判されることもないだろう。インタープリター養成とは、そのマインドを培うことではないかと思う。

父の遺品の中から晩年の講義資料が出てきた。彼にその概念があったのかどうか今ではわからないが、まさに「科学コミュニケーション概論」ともいうべき内容で驚いた。偶然にもこの分野に携わることとなった私は、当時は迷惑に思っていたこの市民運動の話と手書きの講義資料を密かにパクらせてもらっている。

★科学技術インタープリター養成プログラム

URL:<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/STITP/>

## コミュニケーションセンターだより No.49

### ■今月のおすすめ:幻の泡盛「御酒」

#### ■店内入り口に3種全ての御酒を展示しています。

6月より、店内入り口に3種の御酒(陶器ボトル、ミニボトル、熟成古酒)を展示しました。

今までは熟成古酒 御酒のみの展示だったのですが、「折角なら一番目立つ入り口に全てを展示しよう!!」とのスタッフの熱い意見で変更が決まりました。

味・香り・見た目ともに上品な「御酒」。

戦前の黒麹菌を使用した泡盛はこの「御酒」以外には残っていないという貴重な一品です。

お中元、お歳暮に、また海外のお土産にも非常に人気の高い御酒。復活するまでの「御酒のストーリー」を肴に一杯いかがでしょうか。



<左から>

- ・東京大学創立130周年記念  
130周年熟成古酒 御酒  
720ml ¥21,000
- ・御酒陶器ボトル  
720ml ¥4,200
- ・ミニボトル  
300ml ¥1,995

### ■「UTCC新スタッフ紹介」～アミノ酸、紹介します～

UTCCで4月から働いている野島です。元々、東大の活動を外の人に知ってもらいたい、という気持ちがあり、「UT-life」という団体で活動していました。

その活動の中でUTCCを知り、スタッフに応募しました。

僕が好きな商品は「体力式アミノ酸」です。研究室で遅くまで勉強する時に飲むと、本当に疲れにくく、いつも以上に頑張れるのでお勧めです。

皆さんにもアミノ酸の良さを紹介したいので、赤門近くにお立ち寄りの際は、是非UTCCにいらして下さい!!



大学院工学系研究科  
都市工学専攻 修士1年  
野島 史暁

(担当: コミュニケーションセンター 山下)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター  
The University of Tokyo  
Communication Center

OPEN: 月曜～土曜 10:30～18:30

電話: 03-5841-1039

<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>



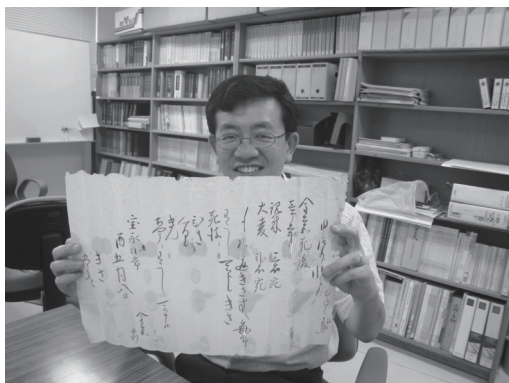
## ワタシのオシゴト / 第29回

Rings around the UT

大学院経済学研究科文書室

富善 一敏さん

## アーカイブズとの至福の日々

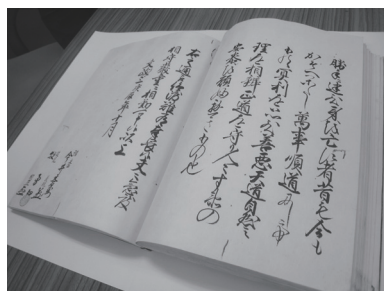
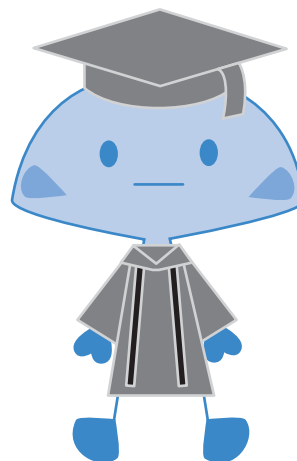


思わず読みふけてしまった古文書です

東大には学生時代からお世話になっていますが、当室に勤めてから、今年でちょうど10年目になります。

経済学部では、経済学部図書館資料室が寄贈を受けた旧山一証券資料をはじめとする、さまざまな企業・団体・個人の一次資料（アーカイブズ）を所蔵しています。当室はそのうちの古文書（こもんじょ、主として江戸時代以前の手書き史料）を分担しています。古文書の目録や画像を、図書館ホームページのサブジェクト（経済学分野）・ゲートウェイ・サービスEngelから公開していますので、お暇な時にでもご覧いただくと幸いです。

史料の受け入れ・整理から閲覧・レファレンスまで、全ての業務を一人でこなしていますが、同僚や利用者の方々の暖かい励ましに支えられ、充実した毎日を過ごしています。目録作成などで原文書を読む時間が、他の何にも代え難い（但し家庭を除く）至福のひとつです。



大学院の授業でテキストにした白木屋文書です

得意ワザ: いわゆる乗りテツ系全般

自分の性格: マイペースでアバウト

次回執筆者のご指名: 村岡ゆかりさん

次回執筆者との関係: 科研費の研究仲間

一言紹介: 史料編纂所で絵巻物の模写や画材の分析をされている、とても素敵な方です。



## 教育学部附属中等教育学校管弦楽部、ミュージックフェスティバルに出演

5月24日(土)(9時45分～10時10分)に東京ディズニーシーのドックサイトステージで、中等教育学校の管弦楽部が演奏を行った。これは、東京ディズニーシーのミュージックフェスティバル・プログラムに応募して採用されたためである。

当日は、天候にも恵まれ、「ウエストサイドストーリー・セレクション」「舞踏会の美女」を大勢の前で演奏した。

管弦楽部部長の三枝未幸さんは、「ディズニーシーで演奏していることが夢のようで、演奏中はずっとドキドキしていました」と話してくれた。

また、管弦楽部の顧問である志賀義俊教諭(音楽科)は、「たくさんの人に来ていただいて、普段経験できないようなステージで演奏できたことは嬉しいことであった。生徒たちにとって貴重な良い体験になった」と喜びのこぼれを語ってくれた。

今後の管弦楽部の活躍に期待したい。



管弦楽部の演奏の様子

## 教育学部附属中等教育学校で2008年度第1回三者協議会開催される

6月14日(土)、教育学部附属中等教育学校では、今年度第1回三者協議会が開催された。これは、附属学校生徒、保護者、教員によって、学校における諸問題をテーマに年3、4回開催されるもので、今回のテーマは「インターネットからの不安を解消するために協力できること」であった。インターネットを学習活動で使うことも多くなっている反面、思いもよらないトラブルに巻き込まれたりするので、その不安を除き上手なインターネットとのつきあい方を探っていこうというものであった。

これまでは、生徒・保護者・教員が司会を囲んで、コの字型に席を設けて話し合いを進めてきたが、今回初めて、生徒・保護者・教員がそれぞれ2名ずつの小グループに分かれて話し合い、それを適宜まとめ、議事を進行していく方法をとった。

はじめ、生徒のアンケート結果を見ていくことから、そこにある問題点を考えた。パソコン、携帯電話の両方を持っているものが8割、これにどちらか一方を持っているものを加えればほぼ全員がインターネット環境を持っており、ブログやプロフィールサイトなどを利用していた。その中で2割ほどの者は何らかのトラブルにあったことがあるようだ。チェーンメールや悪質サイトからのメールから身を守るには、どうしたらよいかそれぞれ智恵を出し合った。今後必要とされることは、インターネットや携帯電話の危険性をふまえ、その安全な使い方やマナー意識を高めていくことだという認識に達した。



三者協議会の様子

# INFORMATION

## シンポジウム・講演会

### シンポジウム・講演会

ナノバイオ・インテグレーション研究拠点 (CNBI)

#### CNBI セルセラピーシンポジウム

東京大学ナノバイオ・インテグレーション研究拠点では、以下のとおりシンポジウムを開催します。多くの方のご来場をお待ちしております。

日時：8月21日(木) 10:00～16:50  
会場：医学部教育研究棟 14階 鉄門記念講堂

開会のあいさつ  
片岡 一則 大学院工学系研究科、大学院医学系研究科

講演者  
中内 啓光 医科学研究所  
長棟 輝行 大学院工学系研究科  
大串 始 産業技術総合研究所  
三宅 淳 大学院工学系研究科、産業技術総合研究所  
紀ノ岡正博 大阪大学大学院基礎工学研究科  
一木 隆範 大学院工学系研究科  
宮脇 敦史 理化学研究所

閉会のあいさつ  
長棟 輝行

懇親会 医学部教育研究棟 13階 「カボ・ベリカーノ」  
費用 5000円

お申し込みは、当拠点 HP からお願いいたします。  
<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CNBI/index.html>

## 募集

### 募集

本部学生支援グループ

東京大学学生支援事業・平成20年度学生企画コンテスト

### 募集趣旨

東京大学は、学生の皆さんから、学生ならではの創意にあふれ、本学で実施されるにふさわしい事業企画案を募集します。採用された企画は、企画立案者にも加わっていただき実施します。本コンテストの目的は、東京大学憲章の精神に則り、本学構成員の一員である学生の皆さんに本学の事業に参加していただき、皆さんのアイデアと発想を活力あふれるキャンパスの創出に活かすことにあります。斬新なアイデアに富む企画が多数寄せられることを期待しています。

1 主催 東京大学

2 募集内容

東京大学で実施されるにふさわしいプロジェクトやイベントの企画案(例えば、課外活動、国際交流、地域交流、キャンパスの美化、安全強化、バリアフリー化などを推進する企画案。もちろんこれら以外のものであってもよい)

3 応募資格 本学に在籍している個人もしくはグループ

4 評価基準 独創性、実施可能性、社会貢献性等を総合的に評価

5 選考

受賞企画は、本学学生生活委員会のもとに設置された学生企画ワーキング・グループ(学生企画コンテスト実施委員会)が、1次選考(書類選考)・2次選考(プレゼンテーション選考)を経て決定します。

(1) 書類選考(1次選考)

① 提出方法 …… 「応募用紙」に必要事項を記入の上、電子メール添付ファイル(WORDファイル)での送付、学生企画コンテスト事務局への持参または郵送により提出してください。(※)「応募用紙」は本学ホームページよりダウンロードが可能です。詳細は、下記ホームページに記載の「記入方法」を参照してください。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/stu/gakuseikikaku/>

② 提出期限 …… 平成20年8月20日(水) 必着

(※) 応募用紙を受領した時点で、学生企画コンテスト

事務局から応募者(団体)に受領確認書をお送りします。

③ 書類提出先 …… 学生企画コンテスト事務局  
本部学生支援グループ(担当:岡田・渡邊)  
〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1  
TEL: 03(5841)2513 Fax: 03(5841)2519  
E-mail: gakusei-kikaku@adm.u-tokyo.ac.jp

④ 書類審査合格企画の発表 …… 平成20年9月上旬  
ホームページに掲載します。

(2) プレゼンテーション選考(2次選考)

書類審査合格者(一次選考採用者)に選考委員会の前でプレゼンテーション(7分間)を行っていただき、質疑応答(13分間)の後、厳正な審査を経て受賞企画を決定します。

プレゼンテーション実施日……平成20年10月  
[日時と場所:未定]

(3) 賞: 優秀賞…3点程度…賞状及び副賞  
佳作…数点…賞状

## 6 審査結果の広報と表彰式

2次審査の結果を応募者に報告し、11月頃に表彰式を行う予定です。受賞者及び受賞企画の内容は、本学のホームページや学内広報に掲載します。

## 7 受賞企画の実施

優秀賞に選ばれた企画の実施に際しては、大学から事業内容に応じ資金援助を受けることができます(3件程度、事業総額上限600万円)。企画の実施に向けては事務局関係者と協議し、事業は平成21年12月20日(日)までに完了していただきます。

## 8 企画実施報告

優秀賞企画および佳作のうち実施した企画(実施中も含む)は、次年度表彰式の際にプレゼンテーションの形による実施(経過)報告を行っていただきます。卒業その他の理由でそれが不可能な場合には、企画終了後学生企画コンテスト事務局に、企画実施報告書を提出していただきます。

## 9 お問い合わせ

応募状況など本コンテストについての質問は、学生企画コンテスト事務局までお問い合わせください。

## 10 その他

○他のコンテストに既に応募していたり、他人の企画を模倣したと判断されたりしたものは、審査対象としません。授賞後にこれらの事実が発覚した場合は、授賞を取り消します。

○応募した企画書・企画書の記入事項・プレゼンテーション資料(第三者の著作権等の権利を侵害する内容は除く)は、「学生企画コンテスト」ホームページで使用できるものとします。

○昨年度実施した「学生企画コンテスト」入選企画の内容および企画の実施状況は、下記ホームページに掲載しています。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/stu/gakuseikikaku/2007/>

## 募集

本部学生支援グループ

### 平成20年度第1回(秋)東京大学学生表彰「東京大学総長賞」の推薦募集開始

本学の学生を対象として、学業、課外活動、各種社会活動、大学間の国際交流等の各分野において、「優れた評価を受けた」「優秀な成績を収めた」「本学の名誉を高めた」などの顕著な功績のあった個人又は団体に、総長が表彰を行う「東京大学総長賞」が平成14年度から設けられています。

この表彰は、本学教職員・学生からの推薦に基づき、「東京大学学生表彰選考委員会」(以下「選考委員会」という)が選考にあたり総長が表彰するものです。

**第1回(秋)は学業以外の課外活動等を対象に募集します。**また、第2回(春)には年間総長賞受賞者の内、特に優秀な者に対し、「総長大賞」が授与される予定です。

1. **提出物:** 別紙様式1(個人)又は別紙様式2(団体)に必要事項を記入し、参考資料等を添付してください。また、書類の提出にあたってはホームページ上の「推薦書類の提出について」を参照してください。
2. **推薦基準:** 以下のとおり。
3. **提出期限:** 9月3日(水)16時まで(必着)
4. **選考結果:** 9月中下旬に受賞者及び推薦者へご連絡いたします。
5. **授与式:** 10月下旬に実施を予定しています。詳細は決まり次第お知らせします。

○詳細については、ホームページをご覧ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h12\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h12_j.html)

## 平成20年度第1回学生表彰 東京大学総長賞推薦募集

対象: 学業以外の課外活動等  
締切: 9月3日(水)午後4時

【提出・問合せ先】  
本部学生支援グループ学生生活チーム 管内  
電話: 03-5841-2514(内線:22514)  
E-mail: gakuseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
参照HP: 東京大学HP>キャンパスライフ>学生表彰

## 【提出先及びお問合せ先】

本部学生支援グループ学生生活チーム

担当：宮内（内線：22514）

E-mail：gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

平成 18 年 6 月 28 日

学生表彰選考委員会

### 東京大学学生表彰「東京大学総長賞」推薦基準

東京大学学生表彰実施要綱（平成 14 年 3 月 19 日総長裁定、平成 18 年 6 月 28 日改正）第 3 に基づき、推薦の基準を以下のとおりとする。

- (1) 学業において、研鑽に励み、他の学生の範となった個人若しくは団体又は学界等により優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人若しくは団体
- (2) 課外活動において、国内外の各種スポーツ、競技、演奏、展示、発表等で優秀な成績を取め、本学の名誉を高めた個人若しくは団体又は課外活動を支援し、課外活動の充実と振興に著しい貢献をした個人若しくは団体
- (3) 環境保全、災害救援、社会福祉、青少年育成、海外援助協力等の各種社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の範となった個人若しくは団体又は社会的に優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人若しくは団体
- (4) 大学間の国際交流において、相互理解と友好関係を深め、本学の国際交流の発展に著しい貢献をした個人又は団体
- (5) その他、これらに準ずるもので、「東京大学総長賞」に相応しい貢献があった個人又は団体

上記基準による推薦者については、自薦又は他薦とする。

ただし、基準(1)の推薦者は、学部学生については学部長、大学院学生については研究科長・教育部の部長に限る。

なお、年 2 回の授与のうち、第 1 回目（秋）の推薦は上記基準の(2)～(5)を、第 2 回目（春）の推薦は基準の(1)をそれぞれ対象とする。

また、在学中の学業、課外活動、社会活動等の評価、活動実績等が上記基準に該当する者は、卒業又は修了後 1 年以内に限り選考の対象とする。

## 募集

生産技術研究所

### 生まれ！発明王 第 6 回東京大学学生発明コンテスト

東京大学では、昨年に引き続き発明コンテストを行います。本学の学生であればどなたでも参加できますので、皆様ふるって応募してください。また、教職員のみなさまには、学生に広く周知していただけますようよろしくお願いいたします。

募集趣旨：若い学生のみなさんの柔軟な頭脳は、「ひょっとしたらノーベル賞級の大発明」につながるアイデアの宝庫かもしれません。これからは、新しいアイデアを個人の内に秘めておくばかりではなく、その権利を社会に主張していくことが大切です。そこで、柔軟な思考を持つ学生のみなさんを対象として、豊かな発想とアイデア、およびその権利の主張を支援すべく、発明コンテストを企画しました。本企画を通じて、豊かな発想を大きな果実に実らせていただくとともに、知的財産権の理解を深めていただくことを期待しています。

応募資格：本学の学生（学部学生・大学院生等）

応募期間：7月1日（火）～9月30日（火）

（必着）

※ 応募用紙は 6 月中旬から配布しております。

日程：

11 月下旬：書類審査終了 予備審査結果の通知

12 月 25 日（木）：本審査 プレゼンテーション

平成 21 年 1 月初旬：審査結果の通知

平成 21 年 1 月下旬：表彰式

発明内容：日用品から専門知識を活かしたもので、発明の分野を問いません。アイデアのみでも試作品段階でも結構です。

提出書類：

応募用紙表紙（様式 A）… 2 部

発明説明書（様式 B、A4 版タテ記述自由形式）… 2 部

発明確認シート（様式 C）… 1 部

応募用紙の様式 A、B の内容を含む電子媒体… 1 部

※ 応募用紙は、以下のホームページからダウンロードできます。応募資格、賞金額、第 1 回から第 5 回までの本コンテストの詳細も参照することができます。

<http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>

審査：生産技術研究所（産学連携委員会）、産学連携本部、財団法人生産技術研究奨励会（TLO）、弁理士の関係者で行う予定

※ 審査においては、特許性よりもアイデアを重視する予定です。

表彰：発明大賞、産学連携本部長賞、生産技術研究所長賞、アイデア賞、奨励賞（数件）

※ 各賞に賞状、副賞、賞金（総額 50 万円）／参加者全員に記念品

※ 優秀な発明に対しては、特許出願のアドバイス

その他：応募する際には、事前に「応募にあたってのご注意」をご確認ください。

※ 一人で複数の発明を応募しても構いませんが、発明ごとに別々に応募してください。

主催：生産技術研究所、産学連携本部、財団法人生産技術研究奨励会（TLO）

問い合わせ先・応募先：

〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1

東京大学生産技術研究所内

財団法人生産技術研究奨励会 発明コンテスト係

電話：03-5452-6094 Fax：03-5452-6096

E-mail: fpistol1@iis.u-tokyo.ac.jp

## お知らせ

### お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

**「教養学部報」第513(7月2日)号の発行**  
——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第513号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

伊藤元己：駒場博物館特別展「進化学の世界—ダーウィンから最先端の研究まで—」

古田元夫：ベトナムにおける漢字教育

山本 巍：哲学は人間遊戯

山影 進：ロバート・ゼーリック世界銀行総裁との政策対話

「世界銀行の使命と人間の安全保障」

岡本拓司：革命進行の片隅で

内野 儀：ALESS・イン・ワンダーランド  
～ALESSプログラムについて～

松田良一：理数系辞典案内 2008 第二弾

〈本の棚〉

木畑洋一：公共哲学論を包括的に提示

山脇直司著『グローバル公共哲学

「活私開公」のヴィジョンのために』

〈時に沿って〉

道上達男：三度目の・・・

小豆川勝見：もっと議論を！

駒場キャンパスの池の名称公募について

### お知らせ

史料編纂所

**九州国立博物館特別展「島津の国宝と篤姫の時代—東京大学史料編纂所 20万点の世界—」のご案内**

史料編纂所では、書庫をふくむ別館部分において、まもなく耐震補強工事がはじまります。このため昨年以來、刊本・写本・マイクロフィルムなどの退避作業を続けてきました。なかでも貴重書庫に収蔵されていた、国宝「島津家文書」ならびに14件の重要文化財をはじめとする原本史料は、九州国立博物館（福岡県太宰府市）にお預かりいただくことになり、美術品専門業者による大量輸送を敢行しました。

現在九州国立博物館では、これらの史料による特別展が、下記のとおり開催されております。

「島津の国宝と篤姫の時代—東京大学史料編纂所 20万点の世界—」

7月12日（土）～8月24日（日）

9時30分～17時

月曜休館（ただし7月14・21、8月11日を除く）

※九州国立博物館HP <http://www.kyuhaku.jp/>

思いがけない事情からではありますが、島津家出身の天璋院篤姫が、NHKの大河ドラマでとりあげられるのと時期を同じくして、「島津家文書」が九州の地に里帰りしたことは、不思議な因縁といえましょう。多くの方々のご来場を得て、日本前近代史研究への理解を深めていただきたいと願う次第です。本学のみなさまにおかれましても、夏休みの帰省や旅行等の機会に、ぜひお立ち寄りください。



島津家文書箱

## お知らせ

### 本部学生支援グループ

#### 初心者水泳教室の開催 (気分はオリンピック選手！)

水泳の初心者を対象とした講習会を本郷構内の御殿下記念館にて開催します。5日間連続の短期集中コースで、しかも講習料は無料！これはビッグチャンス！

あなたも水泳の楽しさを体感してみませんか？

1. 日 時：7月28日(月)、29日(火)、30日(水)  
31日(木)、8月1日(金)計5日間  
各日とも18時00分～19時30分(1時間30分)
2. 場 所：御殿下記念館プール
3. 対 象：本学学生・教職員  
〔初心者(全く泳げない)、初級者(息継ぎができない)に限ります〕
4. 定 員：20名(定員になり次第締め切ります)
5. 講習料：無料

(但し、御殿下記念館入館にパスカード又は当日利用券が必要)

6. 受 付：7月15日(火)9時30分より  
御殿下記念館モール階 運動会受付
7. 説明会：7月25日(金)18時00分～18時20分  
御殿下記念館第一研修室(記念館入口の右隣)
8. 講 師：東京大学水泳同好会  
(日本体育協会公認指導員)
9. その他：問い合わせ先  
本部学生支援グループ体育チーム  
(内線22510)

## お知らせ

### 地震研究所

#### 公開講義・一般公開のお知らせ

地震研究所では、7月30日(水)、一般や学生の方々を対象に、公開講義と一般公開を行います。テーマは、「大地に刻まれた歴史」です。

地震や火山噴火を理解するには、最新の観測データを利用することはもちろんですが、地震によってつくられた地形や火山噴出物など、過去の地震や火山噴火の痕跡を利用することが重要です。公開講義では、遺跡の発掘調査から明らかとなったイタリア・ヴェスビオ火山等の活動や、津波が運んだ堆積物の調査からわかった内外の巨大地震の歴史について、わかりやすくお話しします。

このほかにも、今年大きな被害をもたらした中国四川省の地震や岩手・宮城内陸地震の解析結果の紹介や、実験展示、ミニ講演会も行います。教職員、大学院生一同、皆様のご来訪を心よりお待ちしております。

#### ■月日：7月30日(水)

#### ○研究展示(地震研究所1,2号館)10:00～15:00

- ・パネル展示(最新の研究成果の紹介)
- ・学生実験(手作り地震計、ゼラチン火山実験等)
- ・なまずカフェ(ミニ講演会)

※事前申し込み不要。受付は1号館1階。

#### ○公開講義(安田講堂)15:00～17:00

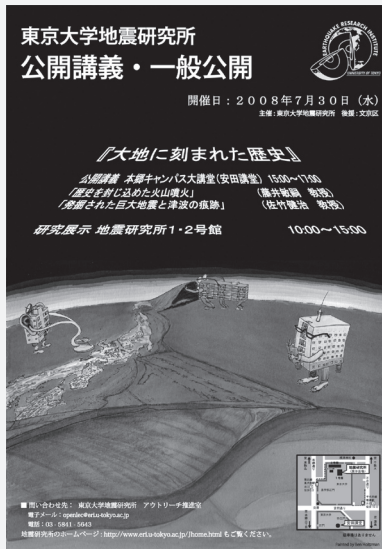
- ・歴史を封じ込めた火山噴火(藤井敏嗣 教授)
- ・発掘された巨大地震と津波の痕跡(佐竹健治 教授)

※事前申し込み不要。直接安田講堂にお越しください。

14:00 開場。

■参加費：いずれも無料

■問い合わせ先：地震研究所アウトリーチ推進室  
電話：03-5841-5643  
メール：openlec@eri.u-tokyo.ac.jp  
<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/KOHO/PANKO2008/>



## お知らせ

医科学研究所

### 公開セミナー「ラブラボ」 ～感染症の研究ってなんだろう？～ 開催のお知らせ

医科学研究所公開セミナー「ラブラボ」を下記の要領にて開催いたします。

本セミナーは、文部科学省科学技術振興調整費重要課題解決型研究「新興・再興感染症制圧のための共同戦略」（代表：山本雅・医科学研究所教授）のアウトリーチ活動で、研究者が感染症制圧を目指してどのような研究をしているのかを、主に高校生、大学生の皆さんを対象にお話しします。意外と知られていない感染症研究について、最前線で活躍する研究者がわかりやすくお話しします。感染症と私達との関係、安心・安全な社会の形成について考える機会としていただければ幸いです。ぜひ、ご参加下さい。

日時：8月5日（火）13:00～15:30

場所：医科学研究所講堂

対象：一般（主に高校生および大学生）

参加費：無料

詳細：

<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/events/others/974.pdf>

問い合わせ：医科学研究所・所長企画室内

公開セミナー事務局（内線 75254）

直通：03-5449-5254

E-mail：office@ims.u-tokyo.ac.jp

プログラム：

13:00～13:15

「開会挨拶と医科研紹介」

山本雅（医科学研究所教授・課題代表者）

13:15～13:45

「ヘルペスって？－脳炎から性感染症まで様々な病態を引き起こすウイルスの正体とそのガン治療への利用」

川口寧（医科学研究所准教授）

13:45～14:15

「病気を運ぶ虫たちとその微生物」

野田博明（独立行政法人農業生物資源研究所ユニット長）

14:15～14:30 コーヒーブレイク

14:30～15:00

「なぜ寄生虫は酸素がなくても生きて行けるのだろう？」

北潔（大学院医学系研究科教授）

15:00～15:30

「感染症から体を守る免疫のしくみ」

笹月健彦（国立国際医療センター名誉総長）

## お知らせ

情報基盤センター

### “事務職員向け情報探索ガイダンス”の お知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、8月限定コースとして、本学の事務職員（短時間勤務有期雇用職員含む）を対象とした、「事務職員向け情報探索ガイダンス」を開催します。

インターネットで利用できるデータベースなどを、検索実習を交えながら解説します。

便利なツールを知って、ぜひ業務に活用してください。

事前予約は不要です。お気軽にご参加ください。インターネット検索初心者の方のご参加も歓迎します。

#### ●日程：

・第1回：8月7日（木）11:00～12:00

・第2回：8月27日（水）16:00～17:00

同内容で2回開催します。都合の良い回にご参加ください。

#### ●会場：

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー  
（定員12名 予約不要です。直接ご来場ください。）

#### ●内容：

・辞書、事典ツールを使う

・新聞、雑誌記事を検索する



- ・官報を検索する
- ・統計データを探す
- ・企業情報を検索する
- ・図書館サービスの紹介

●参加費： 無料

昨年度実施した際の配付資料「事務職員のための情報探索クイックガイド」を、以下のページでご覧いただけます。ご参考にしてください。

[http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/manual/guidance07\\_Jimu.pdf](http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/manual/guidance07_Jimu.pdf)

●問い合わせ：

学術情報リテラシー係

03-5841-2649 (内線：22649)

[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

## お知らせ

本部学生支援グループ

### 「七大戦」マスコット大募集！

全国七大学総合体育大会は北海道大学・東北大学・東京大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学の旧帝国大学7校により開催される体育大会で、「七大戦」「七帝戦」という略称でも親しまれています。40年以上の長きにわたり開催されてきたこの大会には各校の運動部(2008年現在40種目)が参加して総合順位を競い合い、「国立大学オリンピック」とも言うべき大規模な大会となっています。今年の主管校は東北大学、そして来年2009年度大会は本学が主管校を務めます。

全国七大学総合体育大会を主管するにあたり、大会を盛り上げる公式マスコットを公募します。マスコットは各種印刷物や学内および学外向けの広報媒体、webページなどに幅広く登場し、文字どおり大会の「顔」となります。

#### 【応募資格】

本学学生・教職員の方ならどなたでもご応募いただけます。

#### 【応募方法】

専用の応募用紙またはA4の白紙に描画し、必要事項を記入した上で応募ボックスに投函、あるいは運動会宛てに郵送してください。メールに画像を添付しての応募も可能です。

※詳しい応募要項を必ずお読みください。

#### 【応募締切】

8月31日(日)消印有効

#### 【審査発表】

審査選考委員会にて最優秀作品1点を決定、類似調査を経て9月中旬に発表します。

#### 【賞】

最優秀作品の作者には七大戦にちなみ懸賞金7万円と、マスコットを使用した全グッズを進呈します。

本学で開催される「七大戦」のイメージにふさわしい、以下の3つのコンセプトを参考にした作品をお待ちしております。

○愛らしさ、親しみやすさ

…老若男女、誰からも愛されるマスコット

○力強さ、ダイナミックさ

…スポーツの感動を伝えるマスコット

○東京らしさ、身近さ

…全国に東京、そして本学の魅力を届けるマスコット

#### 【応募・問い合わせ先】

(財)東京大学運動会 七大戦マスコット受付係

Tel：03-5841-2510 Email：[undoukai@undou-kai.com](mailto:undoukai@undou-kai.com)

URL：<http://www.undou-kai.com>

上記の運動会webページより、詳しい公募要項と応募用紙がダウンロードできます。多くのご応募をお待ちしております。



今年度大会(東北大主管)マスコット「萩宗」

## お知らせ

保健センター

### 8月の診療日程表

8月1日(金)～8月29日(金)の期間は、下表のとおり業務を行います。  
 なお、各支所とも8月14日(木)・15日(金)は一斉休業のため、全業務休止となります。  
 ※診療日程は、やむをえず変更となる場合がありますのでご利用の際には保健センター  
 ホームページや掲示等で確認されるようお願いいたします。

#### ■本郷支所 (03-5841-2574・2575)

診療科等	診療日時等	対象者
内科	月～金 10:00～12:30 (※受付は、診療終了時刻の15分前までにお願いします。)	学生・教職員
精神神経科 (予約制)	月～金 10:00～13:00 14:00～16:00	
歯科口腔外科 (予約制)	13日(水) 10:00～12:30 20日(水) 10:00～12:30 22日(金) 13:30～15:30 27日(水) 10:00～12:30 29日(金) 13:30～15:30 (大木医師) 5日(火) 10:00～13:00 (門田医師) 7日(木) 13:30～15:30 (初野医師)	
耳鼻咽喉科	1日(金) 10:00～12:30 5日(火) 10:00～12:30 8日(金) 10:00～12:30 19日(火) 10:00～12:30 22日(金) 10:00～12:30 26日(火) 10:00～12:30 29日(金) 10:00～12:30 (※受付は、診療終了時刻の15分前までにお願いします。)	
学生健診追加項目検査	7日(木)・28日(木) いずれも 9:30 集合	学生
放射線取扱者健康診断	1日(金) 10:00～11:00	学生・教職員

#### ■駒場支所 (03-5454-6831)

診療科	診療日時等	対象者
内科	月～金 10:00～12:30 (※受付は、診療終了時刻の15分前までにお願いします。)	学生・教職員
精神神経科 (予約制)	月～金 9:50～12:50 (予約制)	
歯科口腔外科 (予約制)	1日(金) 14:00～16:00 (青柳医師)	
	11日(月) 10:00～12:30・25日(月) 10:00～12:30 (大木医師)	
	21日(木) 9:45～11:30 【矯正相談】(松崎医師)	
皮膚科	19日(火) 14:15～15:45	
整形外科	休診	

#### ■柏支所 (04-7136-3040)

診療科	診療日時等	対象者
内科	月～金 10:00～13:00 14:00～16:00	学生・教職員
精神神経科 (予約制)	月・火 10:00～13:00 14:00～16:00	
	木 10:00～13:00 14:00～16:30	
	金 13:30～15:30	

※柏支所は、一斉休業(8月14日・15日)以外は平常どおり。

	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
20.6.30	中田 隆夫	辞 職（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授）	大学院医学系研究科准教授
20.6.30	柴崎 澄哉	出向期間満了（財務省主税局局付）	大学院公共政策学連携研究部教授
20.6.30	関沢 洋一	出向期間満了（経済産業省通商政策局商政策課企画官）	社会科学研究所准教授
（採 用）			
20.7.1	関崎 勉	大学院農学生命科学研究科教授	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構研究チーム長
20.7.1	中林 伸一	大学院公共政策学連携研究部教授（出向）	財務省大臣官房付
（昇 任）			
20.6.16	川合 謙介	大学院医学系研究科准教授	医学部講師
20.6.16	鈴木 勉	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科准教授
20.6.16	小形 正男	大学院理学系研究科教授	大学院理学系研究科准教授
20.6.16	宮田 隆志	大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター准教授	大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター助教
20.6.16	斎藤 幸恵	大学院農学生命科学研究科准教授	大学院農学生命科学研究科助教
20.6.16	信原 幸弘	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科准教授
20.7.1	小池 創一	医学部准教授	医学部講師
20.7.1	久米 春喜	大学院医学系研究科准教授	医学部講師
20.7.1	中釜 洋子	大学院教育学研究科教授	大学院教育学研究科准教授
（出向）			
20.7.1	武内 和彦	国際連合大学副学長	大学院農学生命科学研究科教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。  
 東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

戸塚洋二特別荣誉教授

元宇宙線研究所長で本学特別荣誉教授の戸塚洋二先生が7月10日ご永眠されました。

戸塚先生は1942年に静岡県でお生まれになり、本学理学部を卒業、同大学院理学系研究科を修了されました。理学博士の学位を取得後、本学理学部の教官として小柴昌俊先生のもとで当時の西ドイツでの電子陽電子衝突実験に参加されました。1988年にスーパーカミオカンデを実現するために宇宙線研究所に移られました。戸塚先生のご努力でスーパーカミオカンデの建設が認められ、1996年にスーパーカミオカンデ実験開始、1998年に宇宙線が大気中で生成するニュートリノを観測してニュートリノ振動（質量）を発見、2001年にはカナダのSNO実験のデータと共に、太陽ニュートリノ問題もニュートリノ振動によるものだということが突き止められました。これらの発見によって、素粒子の標準理論を超えてより深く自然法則を理解するための実験的な手がかりがはじめて得られました。これらは科学史に残る偉大な成果です。また、宇宙線研究所長として、宇宙線研究所と日本の宇宙線研究の発展のためにもご尽力されました。

戸塚先生の達成した科学的成果については多くのところで語られていますので、ここでは戸塚先生にまつわるいくつかのエピソードを紹介します。スーパーカミオカンデの建設は1991年度から始まり、1995年度末に完成の計画でした。そこで戸塚先生は広く世界の研究者仲間に1996年4月1日に観測を開始すると宣言し、約100人の全共同研究者を結束してこの目標に向かって進ませました。こう書くのは簡単ですが、とても大変なことです。本来研究者というのは自分の好きなことをやるという習性があり、さらにこの習性は全共同研究者の約4割を占めるアメリカ人には強いからです。これは戸塚先生の強い決意とリーダーシップによってはじめてなしえたものですが、それと共に忘れてならない、あるいは忘れられないのは、戸塚先生の人柄です。写真に示した戸塚先生のお顔は2000年に撮影したのですが、この写真から想像していただける通り、戸塚先生と話しているだけで心が温まるような人柄でした。この人柄に惹かれて多数の共同研究者が共通の目標に向かって進むことができたのです。

戸塚先生は強いリーダーシップでニュートリノ研究と宇宙線研究所を引っ張ってこられました。我々に特別に強いインパクトを与えたのは、2001年秋の



2000年にカナダで開催されたニュートリノ国際会議の際の戸塚先生

スーパーカミオカンデの事故に際しての戸塚先生のリーダーシップです。戸塚先生は2001年の春には宇宙線研究所長としての任期を終えられ、またこの年の夏前には太陽ニュートリノ問題も解決してスーパーカミオカンデの当初の目的を概ね達成されたとして、このあとは定年までゆっくり物理を楽しもうと思われていたのかもしれませんが、そこに起きたのがあの事故でした。この時の戸塚先生の対応は本当に見事なもので、事故の翌日には装置を再建すると宣言され、全共同研究者を再び同一の目標に向かって進ませました。この時の戸塚先生の献身的かつ強力なリーダーシップがなければ、現在のスーパーカミオカンデも宇宙線研究所も考えられません。いくら感謝してもしきれない思いです。それと共に、戸塚先生が2000年の暮れにガン手術をされてから1年ほどで、その時期にこのような極限状態で過酷な仕事をしていただくことになってしまったということに関して、本当に申し訳ない気持ちです。

最後に戸塚先生が日頃我々に話されたことをここに書かせていただきます。戸塚先生がドイツで研究をされていた1970年代、研究仲間のハイデルベルク

大学の教授の研究室を訪問されたとき、古びた棚のなかに古い道具が置いてあり、それについて聞いてみると、これはヘルムホルツが使った道具だ、こちらは誰々の装置だと説明してくれたそうです。戸塚先生はこのときショックを受けたと仰っていました。つまり、我々日本人にはどこかの歴史上の偉い科学者のものとしか考えられないものが、まさにその場所にある、つまり、ハイデルベルグ大学の研究者にとっては科学の歴史が日常にあり、ひいては科学を切り開いて行くということがあたりまえの環境にいるという、日本の環境との違いにショックを受けたとのことでした。そして我々に、将来の日本の科学の発展のためには、我々も若い日本の学生や研究者が、科学の成果を身近なものとして受け止められるような日本の科学の伝統をつくらねばならないと仰っていました。戸塚先生は大きな科学上の成果を残され、まさにこの言葉通りの壮大な夢の実現に向かって生きてこられました。あとに残された我々がなすべきことは戸塚先生が我々に話して下さった大きな夢に向かってたゆみない努力を続けて行くことだと思います。心より戸塚先生のご冥福をお祈りいたします。

(宇宙線研究所)



朝日賞受賞の知らせを聞いて、共同研究者と撮った記念写真。中央が戸塚先生。1998年暮れ頃

## 平成20年度 学内広報 発行スケジュール

号数	原稿〆切	発行日	配布
1376	7月31日(木)	8月21日(木)	8月27日(水)
1377	9月 3日(水)	9月22日(月)	9月29日(月)
1378	10月 1日(水)	10月20日(月)	10月24日(金)
1379	10月29日(水)	11月14日(金)	11月20日(木)
1380	学生生活実態調査号		
1381	11月26日(水)	12月12日(金)	12月18日(木)
1382	1月 7日(水)	1月26日(月)	1月30日(金)
1383	1月29日(木)	2月16日(月)	2月20日(金)
1384	2月25日(水)	3月13日(金)	3月19日(木)

学内広報にご寄稿の際は、  
以下のURLにある「記事提出要領」をご参照ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)

【東京大学ホームページ】→  
【右下の学内広報アイコンをクリック】

問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ 広報企画チーム  
TEL:03-3811-3393 内線22031  
E-mail:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

## 特集記事の執筆部署を 募集しています！

学内広報では巻頭特集の記事テーマとその執筆部署を募集しています。皆さんの部署でも、ぜひ、特集の記事を執筆してみませんか？

### 1. 制作方法

#### ① テーマの選定

全学の教職員を読者対象とするテーマを選定。まずは、本部広報グループに気軽にご相談ください。

#### ② 内容・構成の決定

執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）の打ち合わせでページ内容を決定します。

#### ③ 原稿の執筆

決定した構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていただきます。字数等は編集スタッフが提示します。

#### ④ ビジュアル要素の提供

写真・図・イラストを提供していただきます。

#### ⑤ デザイン

執筆部署または編集スタッフがページデザインを作ります。

#### ⑥ 校正

文字校正を行なっていただきます。

#### ⑦ 完成

刷り上がった学内広報は執筆部署に多めに配布します。

### 2. 締切日

期日を申しますので、ご協力をお願いします。

### ◆ 表紙写真 ◆

【写真左上から】風力発電機、千葉演習林、総長と TSCP 室員、工学部のゴミ箱、柏環境棟（2ページに関連記事）  
《環境棟画像提供：（株）川澄建築写真事務所》

### 編集後記

今年度の4月採用の新人です。広報Gに配属になり学内広報も担当することになりました。右も左も分からない状態でしたが、頼もしい先輩たちのお陰で発行まで漕ぎ着けました。自分の手が加わったものが実際にモノとして残るのは感動します。また編集の過程で東大の知識がどんどん増えることも喜びの一つです。今後とも頑張りますので、皆様もご寄稿いただける原稿や学内広報に対するご意見がありましたら、是非お寄せ下さい。（か）

# Contents

## 特集

- 02 東大サステイナブルキャンパスプロジェクト (TSCP) 本格始動へ!

## NEWS

### 一般ニュース

- 08 本部キャリアサポートグループ  
知の創造的摩擦プロジェクト第6回交流会開催
- 08 産学連携本部、国際連携本部  
欧州委員会ポトチュニック委員講演会  
～EU研究政策と日・EU研究協力～ 開催される
- 09 本部人材育成グループ  
NEC 佐々木代表取締役会長が新人職員に講話
- 09 本部キャリアサポートグループ  
平成20年度第1回教職員のための「学生のメンタルケア」講習会を開催
- 10 環境安全本部  
「東京大学教職員・学生のための救命講習」開催される
- 11 人事・労務系  
名誉教授の称号授与

### 部局ニュース

- 12 医科学研究所  
第35回医科学研究所創立記念シンポジウム開催される
- 13 大学院総合文化研究科・教養学部  
人間の安全保障でゼーリック世銀総裁と政策対話
- 13 医科学研究所  
International Student Research Forum 2008 に参加
- 14 情報基盤センター  
T2K オープンスパコン東大版システム運用開始。  
国内最大規模のスーパーコンピュータに
- 15 大学院法学政治学研究所・法学部、大学院公共政策学教育部  
留学生見学旅行を実施
- 15 生産技術研究所  
フランス高等教育・研究大臣の来訪と講演会
- 16 大学院教育学研究科・教育学部  
宮下充正名誉教授「秩父宮記念スポーツ医・科学賞」受賞
- 17 大学院工学系研究科・工学部、大学院情報理工学系研究科等  
工学系等地震訓練が行われる
- 17 附属図書館  
柏図書館で「第2回わくわくミニコンサート」を開催
- 18 大学院法学政治学研究所・法学部  
COEシンポジウム「先進国における《政策システム》の創出」が開催される
- 18 大学院農学生命科学研究科・農学部  
小宮山総長、浅島理事・副学長が北海道演習林を視察

### キャンパスニュース

- 19 本部キャリアサポートグループ  
平成19年度学部卒業生及び大学院修了者の就職状況
- 26 本部留学生支援グループ  
平成20年度外国人学生数

## コラム

- 30 Crossroad 産学連携本部だより vol.32
- 31 ケータイからみた東大 ～東大ナビ通信 No.8～
- 32 インタープリターズ・バイブル vol.14
- 32 コミュニケーションセンターだより No.49
- 33 Relay Column 「ワタシのオシゴト」 第29回
- 34 噴水 教育学部附属中等教育学校管弦楽部、  
ミュージックフェスティバルに出演
- 34 噴水 教育学部附属中等教育学校で2008年度  
第1回三者協議会開催される

## INFORMATION

### シンポ・講演会

- 35 ナノバイオ・インテグレーション研究拠点 (CNBI)  
CNBI セルセラピーシンポジウム

### 募集

- 35 本部学生支援グループ  
東京大学学生支援事業・平成20年度学生企画コンテスト
- 36 本部学生支援グループ  
平成20年度第1回(秋)東京大学学生表彰「東京大学総長賞」の推薦募集開始
- 37 生産技術研究所  
集まれ! 発明王 第6回東京大学学生発明コンテスト

### お知らせ

- 38 大学院総合文化研究科・教養学部  
「教養学部報」第513(7月2日)号の発行  
—教員による、学生のための学内新聞—
- 38 史料編纂所  
九州国立博物館特別展「島津の国宝と篤姫の時代—  
東京大学史料編纂所20万点の世界—」のご案内
- 39 本部学生支援グループ  
初心者水泳教室の開催(気分はオリンピック選手!)
- 39 地震研究所  
公開講義・一般公開のお知らせ
- 40 医科学研究所  
公開セミナー「ラブラボ」～感染症の研究ってなんだろう?～ 開催のお知らせ
- 40 情報基盤センター  
“事務職員向け情報探索ガイダンス”のお知らせ
- 41 本部学生支援グループ  
「七大戦」マスコット大募集!
- 42 保健センター  
8月の診療日程表

## 事務連絡

- 43 人事異動(教員)

## 訃報

- 44 戸塚洋二特別栄誉教授

## 淡青評論

- 48 「東大」で「日本語を教える」という仕事



七徳堂鬼瓦

## 「東大」で「日本語を教える」という仕事

「留学生に日本語を教えています。」と言うと、よくある反応は次のようなものである。

A「私も以前アメリカの留学先で、英語のプログラムの世話になりました。東大にも日本語のそういうプログラムがあるんですね。」(まあ、そうもいえませんが……。アメリカの大学の英語プログラムは、英語が相応にできる学生をさらに磨くわけですが、私たちの場合は、既習者ばかりでなく、日本語を全然知らずに来る学生も多いんです。研究留学生ですから、年齢も20代後半から30代と、語学学習には遅めのスタート。シンタクスは違うし、なじみのない文字だらけ。ブラッシュアップが目的の語学学習とは、

だいぶ様子が違うんです。)

B「教養の語学の先生と同じような仕事ですか。」(うーん……。私たちは、学生を、短期間で実際に日本語を使えるようにすることが主目的なので、例えば、日常会話ができればいいのか論文執筆までめざすのかといった各学生個別のニーズや、それぞれの「学習スタイル」の違いへの対応を迫られるなど、かなり違いがあるように思います。)

C「頭のいい学生たちだから、教えるのは楽でしょうね。」(いやあ……。研究者の卵たちなので、言語学者顔負けの理詰めの質問が多くて大変です。ゴールは、あくまでも、実際に聞く・話す・読む・書く技能の習得ですが、それを、あふれる知的好奇心を充足させながら効率よく行うというミッションは、高等教育機関の日本語教育ならではのものでしょう。)

括弧の中は、言いたくても、しばしば胸におさめてしまうことである。広い意味で似ている仕事をしている人は多くても、本当に同じような仕事をしている人は、そう多くはない。私たちの仕事は、研究者+教育者+職人の仕事なのである。職人のワザの成果は、私たちの鍛えた学生たちが日本語でスピーチをする修了式と、その日の学生の満足そうな様子を覗いていただければ、感じていただけるだろう。(みなさま、ぜひ一度お運びを！)

政府の「留学生30万人計画」が動き出そうという今、「留学生増への対応」と、良質な留学生の獲得を他大学と競い合う中での「教育内容の差異化」という新たなファクターが、ミッションに加わることになった。ともすれば、日本語は単に「ケア」の一つと捉えられがちだが、留学希望者にとっては、自分の専門分野の研究・教育レベルとともに、その大学が「魅力ある語学教育プログラム」を提供してくれるか否かも、留学先決定の一つの要素になっていくはずだ。「ぜひ日本に行って、東大のプログラムで日本語を学びたい」と留学希望者に思ってもらうことで、地味ながらも、東京大学の魅力づくりに貢献していきたい……。新しい言語を知的に愉しんで学び、立派な使い手になっていくセンターの留学生たちに接しながら、そう思いを新たにして

菊地康人(留学生センター)

(淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

No. 1375 2008年7月18日

東京大学広報委員会

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報グループ

TEL: 03-3811-3393

e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

http://www.u-tokyo.ac.jp

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報グループを通じて行ってください。